

沖縄工業高等専門学校				電子通信システム工学コース				開講年度		平成30年度 (2018年度)					
学科到達目標															
【本科教育目標】															
1 技術者に必要な基礎知識を備え、実践力のある人材を育成する															
2 創造性を備え、自らの考え方を表現できる人材を育成する															
3 専門的基礎知識を理解し、自ら学ぶことのできる人材を育成する															
4 広い視野と倫理観を備えた人材を育成する															
【専攻科教育目標】															
1 知識を融合する能力を持った実践的技術者を育成する															
2 創造力を備え、自ら創造したものを表現できる人材を育成する															
3 専門知識を基にした応用力を持ち、自ら成長できる人材を育成する															
4 地球的視野と倫理観を備え、社会に貢献できる人材を育成する															
科目区分		授業科目	科目番号	単位種別	単位数	学年別週当授業時数								担当教員	履修上の区分
						専1年				専2年					
						前		後		前		後			
						1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
一般	選択	英詩研究	0014	学修単位	2			2					星野 恵里子		
一般	必修	実用英語I	6001	学修単位	2	2							吉井 りさ		
一般	選択	日琉交流史	6005	学修単位	2			2					下郡 剛		
一般	選択	物理学特論	6010	学修単位	2										
一般	選択	数学通論	6011	学修単位	2	2							成田 誠 山本 寛 吉居 啓輔		
一般	選択	応用物理特論	6013	学修単位	2										
一般	選択	地球科学特論	6028	学修単位	2			2					木村 和雄		
一般	選択	琉球諸語入門	6029	学修単位	2										
一般	選択	英詩研究	6030	学修単位	2			2					星野 恵里子		
専門	必修	創造システム工学実験	6009	学修単位	4	4							谷藤 正一		
専門	選択	バイオテクノロジー	6015	学修単位	2			2					池松 真也 磯村 尚子		
専門	選択	長期インターンシップ	6021	学修単位	12	集中講義							谷藤 正一 金城 伊智子		
専門	選択	バイオマス利用工学	6023	学修単位	2			2					田邊 俊朗		
専門	選択	創造システム工学セミナー一般	6024	学修単位	2	1		1					津村 卓也 高良 秀彦		
専門	選択	創造システム工学セミナー専門	6025	学修単位	2	1		1					津村 卓也 高良 秀彦		
専門	必修	品質・安全マネジメント特論	6033	学修単位	2			2					眞喜志 隆 中平 勝也 玉城 龍洋 伊東 昌章 沖田 紀子		

専門	必修	特別研究IA	6201_a	学修単位	3	3									良秀, 神穂, 金子智一, 谷正一, 田稔, 城亀博紀, 高彦, 里子, 城子, 藤山親宮, 柱濱中勝也	
専門	選択	特別研究IB	6201_b	学修単位	3			3							良秀, 神穂, 金子智一, 谷正一, 田稔, 城亀博紀, 高彦, 里子, 城子, 藤山親宮, 柱濱中勝也	
専門	選択	シミュレーション工学	6204	学修単位	2			2							金城伊智子	
専門	選択	数理計画法	6205	学修単位	2			2							神里志穂子	
専門	選択	信号処理特論	6208	学修単位	2			2							中平勝也	
専門	選択	マイクロ波工学	6210	学修単位	2											
専門	選択	システムLSI設計工学	6211	学修単位	2	2									山田親稔	
専門	選択	光電子デバイス	6212	学修単位	2	2									高良秀彦	
専門	選択	半導体物性工学	6213	学修単位	2			2							兼城千波	
専門	選択	LSIプロセス工学	6216	学修単位	2	2									兼城千波	
専門	選択	航空工学I	8001	学修単位	2	2									高良秀彦, 谷正一, 相川洋平	
専門	選択	航空工学II	8002	学修単位	2	2									眞志, 隆津, 村卓也	
一般	必修	実用英語II	6002	学修単位	2					2					吉井りさ	
一般	選択	哲学・倫理学	6004	学修単位	2								2		青木久美	
一般	選択	応用解析学	6012	学修単位	2					2					安里健太郎	
一般	選択	English Business Communication	6031	学修単位	2					2					カマコ, アイクイ, オカラニ	
一般	選択	スポーツ科学特論	6032	学修単位	2					2					和多野大	
専門	選択	物理化学	6014	学修単位	2					2					濱田泰輔	
専門	選択	経営工学	6020	学修単位	2											
専門	選択	長期インターンシップ	6021	学修単位	12										谷藤正一, 金城伊智子	
専門	選択	グローバルインターンシップ	6022	学修単位	2										谷藤正	
専門	選択	創造システム工学セミナー一般	6024	学修単位	2					1			1		津村卓也, 谷正一	
専門	選択	創造システム工学セミナー専門	6025	学修単位	2					1			1		津村卓也, 谷正一	

専門	選択	品質・安全マネジメント特論	6027	学修単位	2	2	志中勝也, 喜隆平, 眞隆平, 玉城龍伊, 東章, 冲田紀子	
専門	必修	特別研究Ⅱ	6202	学修単位	8	4 4	秀穂, 良神志, 高彦里子, 金子伊智, 城子, 藤合正, 山田親稔, 宮城亀博, 桂濱中平, 勝也	
専門	必修	専攻科実験	6203	学修単位	4	2 2	秀穂, 良神志, 高彦里子, 金子伊智, 城子, 藤合正, 山田親稔, 中平勝也	
専門	選択	生体情報工学	6206	学修単位	2	2	神里志穂子	
専門	選択	数値解析論	6207	学修単位	2		藤井 知	
専門	選択	アルゴリズム理論	6209	学修単位	2	2	金城 伊智子	
専門	選択	弾性波工学	6214	学修単位	2	2	藤井 知	
専門	選択	電子機器工学	6215	学修単位	2	2	谷藤 正	
専門	選択	知能システム特論	6217	学修単位	2	2	神里志穂子	
専門	選択	航空工学III	8003	学修単位	2	2	眞喜志治	
専門	選択	航空工学IV	8004	学修単位	2	2	森澤 征一郎	

沖縄工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	実用英語I	
科目基礎情報							
科目番号	6001			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	電子通信システム工学コース			対象学年	専1		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	プリント						
担当教員	吉井 りさ						
到達目標							
This course is designed to engineer future career with practical English skills while focusing on SDGs (Sustainable Development Goals). 【III-B】							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
Students should acquire basic vocabulary.	Showing almost perfect understanding of vocabulary and scoring more than 90% in the quiz.			Showing good understanding of vocabulary and scoring more than 75% in the quiz.		Showing good understanding of vocabulary and scoring more than 60% in the quiz.	
Students should develop listening and reading skills.	Scoring more than 90% in the exam and TOEIC.			Scoring more than 75% in the exam and TOEIC.		Scoring more than 60% in the exam and TOEIC.	
Students should be able to express themselves orally and through written medium in English.	Displaying fluent and accurate use of English with good grammar and vocabulary and scoring more than 90% in the exam.			Displaying fluent and accurate use of English with a few errors and scoring more than 70% in the exam.		Displaying fluent and accurate use of English despite errors and scoring more than 60% in the exam.	
Students can understand technical texts/documents.	Read more than 5000 words in a week.			Read more than 4500 words in a week.		Read more than 4000 words in a week.	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	This course is designed to engineer future career with practical English skills and focusing on SDGs (Sustainable Development Goals). 【III-B】						
授業の進め方・方法	Improve 4 Skills : Speking / Listening / Reading / Writing ・ Presentation ・ TOEIC						
注意点							
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	Introduction		English for Science and Technology		
		2週	Comprehension		English for Science and Technology		
		3週	Comprehension		English for Science and Technology		
		4週	Comprehension		English for Science and Technology		
		5週	Comprehension		English for Science and Technology		
		6週	Comprehension		English for Science and Technology		
		7週	Test		English for Science and Technology		
		8週	Skills		English for Science and Technology		
	2ndQ	9週	Skills		English for Science and Technology		
		10週	TOEIC Test		Business English		
		11週	Presentation		Presentation Skills		
		12週	Presentation		Delivery		
		13週	Presentation		Delivery		
		14週	Presentation		Delivery		
		15週	Presentation		Delivery		
		16週					
評価割合							
	Test	TOEIC Test	Presentation	Log	合計		
総合評価割合	30	30	30	10	100		
基礎的能力	10	5	10	5	30		
応用力	0	20	5	0	25		
社会性（プレゼン・コミュニケーション・PBL）	10	0	10	0	20		

主体的・継続的学修意欲	10	5	5	5	25
-------------	----	---	---	---	----

沖縄工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	日琉交流史
科目基礎情報						
科目番号	6005			科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	電子通信システム工学コース			対象学年	専1	
開設期	後期			週時間数	2	
教科書/教材						
担当教員	下郡 剛					
到達目標						
沖縄地域社会の理解を目的とし、日本本土との人の中での移動に伴って生じる、文化・歴史の関係性についての認識を深める。						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
		琉球仏教に関するフィールドワークを通して、自分なりの視点で、琉球仏教の歴史と現状をまとめることができる。		現在における沖縄文化と沖縄仏教との関係性を総合的に理解できる。		日本仏教の宗派別異差違と琉球仏教との関係を理解できる。
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	資・史料を提示し、歴史学的方法論を併せて説明することで、科学的・論理的に考える能力を高めるとともに、リアリティーある時代像の構築に努める。					
授業の進め方・方法	フィールドワークの手法を取り入れることで、特に沖縄北部地域が日本本土との交流に果たした役割をリアルに認識できるよう努める。					
注意点	フィールドワークを行う必要上、受講者の人数制限を行う。人数は公用車で引率できる学生数とする。					
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス	授業内容とその進め方等を説明する		
		2週	平安・鎌倉時代の日本仏教	琉球における仏教文化の母体となった、日本仏教について、基礎的知識を得る。対象とする時代は、琉球仏教の2大宗派となる真言宗と臨済宗を中心とし、両宗派が成立する平安時代と鎌倉時代とする。		
		3週	琉球への仏教の伝来	近世期の琉球仏教の概要を知るとともに、それが日本から伝来してくることについて学ぶ。		
		4週	琉球仏教の展開	日本から伝来した仏教が、古琉球期に、いかに琉球社会に定着してゆくのかを、特に禅宗を中心に学ぶとともに、日琉交流における僧侶の役割を知る。		
		5週	僧侶を介した日本と琉球の文化交流	日琉禅僧の媒介としての堺商人を取り上げ、禅僧と堺商人との交流ツールとしての茶文化に注目する。その上で、茶文化が日本から琉球に伝来してゆくこと、これが琉球社会の中で独自の展開を見せることについて知る。		
		6週	補陀落渡海と日秀	琉球への仏教の伝来と定着の上で、大きな役割を果たした日秀について知ること、琉球社会と真言宗について学ぶ。さらに、その拠点となった金武観音寺と観音信仰・補陀落渡海について学ぶ。		
		7週	沖宮天燈山の石碑	科目担当教員自身が代表者となった科研費研究で発見・発掘調査した沖宮天燈山の石碑を通して、仏教を介した日本と琉球の文化交流の一端を学ぶ。		
		8週	桃林寺と円覚寺の三牌	科目担当教員自身が代表者となった科研費研究で発見・調査した桃林寺の三牌を通して、仏教を介した日本と琉球の文化交流の一端を学ぶ。		
	4thQ	9週	フィールドワーク1－沖宮	王国時代は臨海寺と一体であった沖宮に行き、神仏習合の様子を見る。また沖宮の裏手の天燈山に登って、石碑を見て、王国時代の仏教観を学ぶ。		
		10週	フィールドワーク1－沖宮	上記調査について、沖宮への往復などで多くの時間を要する。従って、授業変更をして、連続200分授業とし、沖宮に移動した上で調査を行う。		
		11週	フィールドワーク2－金武観音寺	「補陀落渡海と日秀」での授業で得た知識をもとに、本島内で唯一沖縄戦の戦禍を免れた寺院でもある金武観音寺に実際に赴いて、現地を視察する。そのことを通して、沖縄高専所在地の本島北部地区にある文化遺産を身近に感じ、体感できる機会を作る。		
		12週	フィールドワーク2－金武観音寺	上記調査について、観音寺への往復などで多くの時間を要する。従って、授業変更をして、連続200分授業とした上で、現地調査を行う。		
		13週	フィールドワーク3－円覚寺跡	日琉文化交流上大きな役割を果たした琉球臨済宗において、近世期第一位の寺格を誇った円覚寺跡に赴いて、現地を視察する。そのことで、首里城との近接性を体感し、外交上での臨済宗の意義についての認識を深める。		
		14週	フィールドワーク3－円覚寺跡	上記調査について、円覚寺跡への往復などで多くの時間を要する。従って、授業変更をして、連続200分授業とした上で、現地調査を行う。		

		15週	その後の日秀		補陀落信仰に基づき、琉球に渡海した日秀は、その後、琉球を離れ、再度日本に戻る。彼が琉球を離れた後、布教活動を行った鹿児島での行動を追い、現地写真を見ることで、論点を廃仏毀釈にまでつなげ、金武観音寺で見た沖縄における神仏習合の残存状況と対比する。		
		16週	期末試験				
評価割合							
	試験	レポート	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	20	0	0	0	0	100
基礎的能力	80	20	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

沖縄工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	英詩研究
科目基礎情報						
科目番号	6030			科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	電子通信システム工学コース			対象学年	専1	
開設期	後期			週時間数	2	
教科書/教材	プリント配布					
担当教員	星野 恵里子					
到達目標						
詩作品に親しみ、参考文献を探し出し、自分なりの解釈や自分の言葉で日本語訳をすることができるようになる。さらには、作品の意図することを把握しながら、ふさわしい抑揚で朗読することができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	作品が生まれた時代背景も考察しながら、作品を和訳するのみならず、自分の論理で解釈できる。その際、様々な参考文献を読み、自分の論理に合うように取捨選択できる。また、ブレイク自身の手による絵画と詩作品の関連性も考察できる。		作品が生まれた時代背景を考察しながら、作品を和訳できる。様々な参考文献を読むことが出来る。		作品が生まれた時代背景を説明できる。作品を和訳・解釈できる。	
評価項目2	作品の文脈を把握しながら、を自分の言葉で和訳でき、和訳したものが詩として読むに堪えるものである。さらには、自分なりの理論で作品を解釈できる。作品に合うように朗読できる。		既存の和訳を参考にしながら文脈を把握でき、自分の言葉に置き換えて和訳できる。既存の解釈を参考にしながら自分なりの解釈をしようと努力している。発音を間違えることなく朗読できる。		既存の和訳や解釈を参考にしながら、自分の言葉で和訳や解釈ができる。時折発音を間違えるが、朗読できる。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	グローバルに活躍するということは、外国語を流暢に話すことではなく、自国文化のみならず相手国文化への理解をもつことであると考えられる。英語に関しては、英語を母語としている国の文化への理解、ということになるが、その文化の一部を担うのが文学である。本講義では以下の3点を中心に扱う。①英国の画家で詩人であるWilliam Blake(1757-1827)の初期の作品を中心に和訳・解釈・朗読する。②ブレイク周辺の詩人の作品を和訳・解釈・朗読する。③サブカルチャーを含めた現代文化へのブレイクの影響を考察する。					
授業の進め方・方法	毎回扱う作品とレポーターを決め、レポーターが責任を持って以下の事を発表する。 ①作品の和訳 ②作品の解釈 ③作品の朗読					
注意点	参考資料等をきちんと提示し、自分のオリジナリティを出すようにする。 なお、授業の進行や授業内容は状況によっては変わることもある。					
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	扱う作品の提示とレポーターを決める		William Blakeの生涯を、生きた時代に合わせて把握できる。	
		2週	Introduction' 'Earth's Answer'		Introductionにまつわる周辺を理解できる。	
		3週	The Lamb' 'The Tyger'		二つの詩作品が象徴するものが理解できる。	
		4週	Infant Joy' 'Infant Sorrow'		幼子の持つ対照的な感情の原因が理解できる。	
		5週	二つの'Nurse' Song'		同タイトルを持つ二つの詩作品の違いとその理由を理解できる。	
		6週	二つの'Holy Thursday'		同タイトルを持つ二つの詩作品の違いとその理由を理解できる。	
		7週	二つの'The Chimney Sweeper'		同タイトルを持つ二つの詩作品の違いとその理由を理解できる。	
		8週	植物にまつわる詩 'The Blossom' 'The Sick Rose'		詩作品で表現されている植物が象徴する事物を理解できる。	
	4thQ	9週	植物にまつわる詩 'The Poison Tree' 'My Pretty Rose-Tree'		詩作品で表現されている植物が象徴する事物を理解できる。	
		10週	The Marriage of Heaven and Hell		本作品の特徴的な部分を抽出し、その特異な表現やそれが象徴するものを理解できる。	
		11週	英国・アイルランドのロマン派詩人について		ロマン派とは何か、どのような詩人がいるか理解できる。	
		12週	ブレイクをモチーフとしたサブカルチャー紹介		サブカルチャーとは何か、理解できる。	
		13週	ブレイクをモチーフとしたサブカルチャー紹介		サブカルチャーにブレイクのどの部分が扱われているか指摘できる。	
		14週	ブレイクをモチーフとしたサブカルチャー紹介		サブカルチャーで扱われているブレイクに共通する事物を理解することができる。	
		15週	現代を生きるブレイク		現代人にいかにブレイクが影響を与えたか考察・理解できる。	
		16週				

評価割合			
	レポート	口頭発表（相互評価を含む）	合計
総合評価割合	60	40	100
基礎的能力	20	20	40
専門的能力	20	20	40
主体的・継続的学修意欲	20	0	20

沖縄工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	創造システム工学実験
科目基礎情報					
科目番号	6009		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	実験・実習		単位の種別と単位数	学修単位: 4	
開設学科	電子通信システム工学コース		対象学年	専1	
開設期	前期		週時間数	4	
教科書/教材	図書などで収集した資料、学生作成の資料				
担当教員	谷藤 正一				
到達目標					
設定した課題解決のために、適切に実験計画を立て、それを遂行する。それを実現するために以下を科目目標とする。 ①汎用的技能として、A.コミュニケーションスキル、B.合意形成、C情報収集・活用・発信力、D.課題発見、E.論理的思考力を身につける。 ②グループワークに必要な行動要素（A.主体性、B.自己管理能力、C.責任感、D.チームワーク力、E.リーダーシップ、F.倫理観（独創性の尊重、公共心））を身につける。 ③総合的な学習経験を通して、創造的思考力（A.創造能力、B.エンジニアリングデザイン能力）を身につける。 ④工学関連分野（機械・電気電子・情報・生物）の問題発見・解決方法を身につける。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベル（優）		標準的な到達レベル（良）		最低限必要な到達レベル（可）
①汎用的技能として、A.コミュニケーションスキル、B.合意形成、C情報収集・活用・発信力、D.課題発見、E.論理的思考力を身につける。	・口頭のみ、あるいは板書を併用して聞き手の理解を得ることができる ・他者の考えや意見を把握し、意見を述べるができる ・単独で、グループ内の意見をまとめ、グループ全体の理解を得、さらに合意点を設定することができる ・必要な情報を十分かつ正確に収集でき、プレゼンの際に適切に活用できる ・授業を進めながら、授業に重要な点や不足部分をグループで確認・解決し、授業の内容や進度を調整できる ・他学生からの質問等に対して、単独で、わかりやすく回答することができる		・適切な資料を用いて聞き手の理解を得ることができる ・他者の考えや意見を把握することができる ・他者と協力して、グループ内の意見をまとめ、グループ全体の理解を得ることができる ・必要な情報を収集でき、プレゼンの資料に適切まとめられている ・授業の中で気が付いたことを、グループ内で提案し、次回に活かすことができる ・他学生からの質問等に対して、他者の協力を得ながら、理解を得られる回答ができる		・他者の協力を得ることで、聞き手の理解を得ることができる ・協力を得ることで、他者の考えや意見を把握することができる ・グループ内の意見のまとめ方、得られた理解が不十分である ・情報が収集できており、プレゼン資料にある程度まとめられている ・個人で授業に関する問題のいくつかに気づき、修正を試みることができる ・他学生からの質問等に対して、時間はかかるが、最終的に、理解を得られる回答ができる
②グループワークに必要な行動要素（A.主体性、B.自己管理能力、C.責任感、D.チームワーク力、E.リーダーシップ、F.倫理観（独創性の尊重、公共心））を身につける。	・極めて自主的に、自身のやるべきことに取り組むことができる ・授業を行うという責務を果たし、授業中は、十分に教室全体に気を配ることができる ・授業を行うという責務を果たし、授業中は、十分に教室全体に気を配ることができる ・自身の役割を、他者の役割と関連付けながら遂行することができる ・常にグループ全体に気を配り、極めて自発的にグループをまとめることができる ・講義資料を作成する際に用いた参考文献等を正しく明記し、自身の意見や発見と他者のそれを明確に表現することができる		・時々指導をうけることもあるが、基本的には自身のやるべきことに、自主的に取り組むことができる ・授業を行うことの責務を理解しており、教室内への気配りもできている ・授業を行うことの責務を理解しており、教室内への気配りもできている ・自身の役割を遂行しながら、他者の進捗状況に合わせて協力することができる ・他者の協力を得ることで、全体をまとめることができる ・講義資料を作成する際に用いた参考文献等を明記し、引用箇所を明示することができる		・指導を受けることによって、自身のやるべきことに取り組むことができる ・授業への貢献度が低く、受講生と同じ目線で授業に参加している ・授業を進めるにあたってグループに対して連絡・相談の重要性は意識できておらず、授業への貢献度が低く、受講生と同じ目線で授業に参加している ・自身の役割のみに集中する ・全体をまとめることができず、他者への依存度が高い ・講義資料を作成する際に用いた参考文献等が明記されておらず、自身の意見と他者の意見の表現の区別が明確でない
③総合的な学習経験を通して、創造的思考力（A.創造能力、B.エンジニアリングデザイン能力）を身につける。	・作成した資料や教材に、これまでの知識が十分に活かされており、そこから新たな知見を得ることができる ・教育目標を達成するまでの流れがスムーズで、学ぶべきことが最適に配置された授業を計画、遂行することができる		・作成した資料や教材に、これまでの知識の多くが活かされている ・達成すべき目標と講義内容が関連付けられた授業を計画することができる		・指導を受けることによって、これまでの知識を資料や教材に活かすことができる ・教育目標が不明瞭で、講義内容とのリンクが不十分である
④工学関連分野（機械・電気電子・情報・生物）の問題発見・解決方法を身につける。	授業を通して、工学関連分野（機械・電気電子・情報・生物）の問題発見・解決方法が理解できる		資料を使って、工学関連分野（機械・電気電子・情報・生物）の問題・解決方法を説明できる		工学関連分野（機械・電気電子・情報・生物）の問題と方法の区別をつけることができる
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	・情報収集と課題発見、実験計画、進捗状況 50% ・グループワーク 30% ・創造性、プレゼンテーション、レポート 20% 【複数教員担当方式】				
授業の進め方・方法	・興味のあるテーマに対し、実社会における情報収集を行い、その課題・問題点を抽出する。 ・全コース混合で数チームを編成し、考えられる課題をグループで集約し、その課題解決のために、必要な要素（技術・知識）を出し合い、学生が自主的に課題解決に向けた実験計画を行い、その実践に取り組む。 ・学生がこれまで習得してきた知識・技術を基に、チーム内で協力し合い、エンジニアリングデザイン能力を発揮し、創造的に製品化に向けた取組を行う ・7週目に、チーム間で設計コンペティションを行い、選ばれた設計につき、後半、チーム別で製品化に取り組む。 ・最終週は各チームによるコンペティションを実施する。				
注意点	この科目の主たる関連科目は本科専門科目全てである。				
授業の属性・履修上の区分					
☒ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応	
				☐ 実務経験のある教員による授業	

授業計画				
		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	オリエンテーション	科目の概要説明、グループ編成と実験計画
		2週	課題に適合した製品設計	課題抽出と問題解決に向けた実験・実習
		3週	課題に適合した製品設計	課題抽出と問題解決に向けた実験・実習と改善
		4週	課題に適合した製品設計	課題抽出と問題解決に向けた実験・実習と改善
		5週	課題に適合した製品設計	課題抽出と問題解決に向けた実験・実習と改善
		6週	課題に適合した製品設計	課題抽出と問題解決に向けた実験・実習と改善
		7週	設計コンペティション	チーム間で設計コンペティションを行う
		8週	課題に適合した製品製造	課題抽出と問題解決に向けた実験・実習と改善、創作物製作
	2ndQ	9週	課題に適合した製品製造	課題抽出と問題解決に向けた実験・実習と改善、創作物製作
		10週	課題に適合した製品製造	課題抽出と問題解決に向けた実験・実習と改善、創作物製作
		11週	課題に適合した製品製造	課題抽出と問題解決に向けた実験・実習と改善、創作物製作
		12週	課題に適合した製品製造	課題抽出と問題解決に向けた実験・実習と改善、創作物製作
		13週	課題に適合した製品製造	課題抽出と問題解決に向けた実験・実習と改善、創作物製作
		14週	課題に適合した製品製造	課題抽出と問題解決に向けた実験・実習と改善、創作物製作
		15週	製品発表	チーム別に製品を発表する
		16週	期末試験は実施しない	

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他（演習課題・発表・実技・成果物等）	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
基礎的理解	0	0	0	0	0	40	40
応用力（実践・専門・融合）	0	0	0	0	0	20	20
社会性（プレゼン・コミュニケーション・PBL)	0	0	0	0	0	20	20
主体的・継続的学修意欲	0	0	0	0	0	20	20

沖縄工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	バイオテクノロジー	
科目基礎情報							
科目番号	6015		科目区分		専門 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	電子通信システム工学コース		対象学年		専1		
開設期	後期		週時間数		2		
教科書/教材	教材：教員自作プリント、パワーポイントなどプレゼン資料およびビデオ資料 参考図書：Essential細胞生物学原書第3版（南江堂）、基礎から学ぶ遺伝子工学（羊土社）、これだけはおさえたい生命科学（実教出版）、（キーワード：バイオテクノロジー、ES細胞、iPS細胞、COP10、次世代シーケンサー、再生医療、プレジジョン・メディシン、生態学、産地・品種判別、バイオレメディエーション）						
担当教員	池松 真也,磯村 尚子						
到達目標							
バイオテクノロジーについて理解する。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
バイオテクノロジーとはどういうものかを例を挙げて説明できる。		産業応用できるバイオテクノロジーを複数例を挙げて説明できる。		バイオテクノロジーの具体例を挙げて説明できる。		バイオテクノロジーに関わる事項の大半について理解できる。	
各分野に応用されているバイオテクノロジーについて説明できる。		各自の分野に応用できるバイオテクノロジーを発見し、説明できる。		各自の分野に適合するバイオテクノロジーを説明できる。		授業で取り挙げたバイオテクノロジーについて理解できる。	
バイオテクノロジーの基礎用語・基礎事項を理解できる。		各授業項目で取り上げられた基礎用語や基礎項目を理解し、それらを使用、利用しバイオテクノロジーを説明できる。		各授業項目で取り上げられた基礎用語や基礎項目を理解できる。		各授業項目で取り上げられた基礎用語や基礎項目の大半を理解できる。	
バイオテクノロジーの実際利用を考えると情報収集力や経済的観点での商品開発力を培うことができる。		収集した情報をもとに経済的観点でバイオテクノロジーを応用した商品開発を提案できる。		バイオテクノロジーと経済という2つの観点から情報を収集できる。		バイオテクノロジーについての情報収集ができる。	
各自で企画したヨーグルトを実際に作製することで、バイオテクノロジーの実際を説明できる。		企画したヨーグルトを作製し、その科学的、経済的利点を説明できる。		企画したヨーグルトを作製できる。		バイオテクノロジーを応用したヨーグルトの作製法を理解できる。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		この授業は、実務経験者が企業における経験をもとに、バイオテクノロジーの基礎やヨーグルト商品の開発プロセスを通じたバイオテクノロジーの理解を主に講義形式で行うものである。【オムニバス方式】					
授業の進め方・方法		バイオテクノロジー（BT）を理解するために必要な理論・事象などをわかりやすく講義する。最先端のBTをビデオなどの補助教材を利用して講義するよう努める。BTの倫理的問題をパワーポイント補助教材で事例を紹介し、理解し易いよう講義する。BTと経済の関係を医薬品開発などを例に挙げ、講義する。BTをヨーグルト商品開発の企画・製作を通して実習する。 バイオテクノロジーと基礎分野（生態学）および身近な科学分野（環境学、農学・水産学）との関係をわかりやすく講義することで、バイオテクノロジーへの興味と理解を深める。評価は、定期試験（中間のみ）50%、新規ヨーグルト提案（企画書・プレゼンテーション）30%、毎回の授業のまとめレポート（質問票）20%とし、満点を100%として評価する。60%以上を合格とする。					
注意点							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	バイオテクノロジー概論（担当：池松真也）		バイオテクノロジー（BT）の発展の歴史と現状を学ぶ。		
		2週	バイオテクノロジーの応用（1）（担当：池松真也）		BTが応用されたノーベル賞級の技術について学ぶ。		
		3週	バイオテクノロジーの応用（2）（担当：池松真也）		再生医療やプレジジョン・メディシンについて学ぶ。		
		4週	バイオテクノロジーと生命倫理（担当：池松真也）		BTの明と暗の例を挙げ、生命倫理について学ぶ。		
		5週	バイオテクノロジーの新しい潮流（担当：池松真也）		ヒトゲノム計画からオーダーメイド医療までを学ぶ。		
		6週	バイオテクノロジーと環境学（担当：磯村尚子）		環境学に関連したバイオテクノロジーを学ぶ。		
		7週	バイオテクノロジーと環境学（2）（担当：磯村尚子）		具体例として、次世代シーケンサーを用いた細菌相解析について学ぶ。		
		8週	後期中間試験		前半の授業のまとめと理解度の確認。		
	4thQ	9週	バイオテクノロジーと異分野融合（担当：磯村尚子）		生物資源工学と機械システム工学との共同研究について学ぶ。		
		10週	バイオテクノロジーの応用（3）（担当：磯村尚子）		バイオテクノロジーと泡盛醸造の接点を学ぶ。		
		11週	バイオテクノロジーの応用（4）（担当：池松真也）		微細藻類でバイオディーゼルを製造することを学ぶ。		
		12週	バイオテクノロジーの応用（5）（担当：池松真也）		腸内フローラをバイオテクノロジーへ応用することを学ぶ。		
		13週	テーマを持ったオリジナル・ヨーグルトの企画（担当：池松真也）		バイオテクノロジーを応用したヨーグルトの企画書を作成し、ヨーグルト作製の手順書を作成する。		
		14週	バイオテクノロジーの実際を説明（担当：池松真也）		企画書したヨーグルトについてプレゼンテーションする。		
		15週	ヨーグルト製作（担当：池松真也）		企画したヨーグルトを実際に制作する。		
		16週					
評価割合							

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	10	0	0	20	20	100
基礎的能力	30	0	0	0	10	0	40
専門的能力	20	0	0	0	0	10	30
社会性（プレゼン・コミュニケーション・PBL）	0	0	0	0	0	10	10
主体的学修意欲	0	10	0	0	10	0	20

沖縄工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	長期インターンシップ	
科目基礎情報							
科目番号	6021			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	実験・実習			単位の種別と単位数	学修単位: 12		
開設学科	電子通信システム工学コース			対象学年	専1		
開設期	集中			週時間数			
教科書/教材	教員作成資料、企業作成資料						
担当教員	谷藤 正一,金城 伊智子						
到達目標							
①長期間にわたる実務経験を通して、職業意識を向上させ、実社会に必要な素養・協調性・能力・価値観を身につけ、自らのキャリアデザインにつなげることができる ②高専で学んだことと働くことを関連付けて考え、企業活動の国内外に対する関連性・社会的責任を理解することができる ③就業経験および共同研究・受託研究を通して、研究開発の意義を学び、遂行することができる 【6-3-1 VII-A】企業等における将来にわたるキャリアイメージをもとに、仕事とのマッチングを考えることができる 【6-3-1 VII-A】キャリアイメージを実現するために必要な自身の能力について考えることができ、それを高めようとする姿勢をとることができる。 【6-3-1 VII-A】企業あるいは技術者・研究者が持つべき仕事への責任を理解できる 【6-3-3 VII-C】自らの主体性や意欲の向上から、技術者に要求される創造的実践性、複眼的視野を持つことができる 【6-3-3 VII-C】品質、コスト、効率、スピード、納期などに対する視点を持つことができる 【6-3-3 VII-C】チームワーク力、リーダーシップ力、マネジメント力などを身に付けることができる							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
長期間にわたる実務経験を通して、職業意識を向上させ、実社会に必要な素養・協調性・能力・価値観を身につけ、自らのキャリアデザインにつなげることができる。	実務経験を通し、その内容を理解し、実社会に必要な素養・協調性・能力・価値観を身につけ、自らのキャリアデザインにつなげることができる			実務経験を通し、その内容を理解し、職業意識を向上させることができる		実務経験を通し、その内容を理解し、日報や報告書に記述することができる (指示された通りに行動し、指示された提出物を期日厳守で提出する)	
高専で学んだことと働くことを関連付けて考え、企業活動の国内外に対する関連性・社会的責任を理解することができる。	実務経験を通し、その内容を理解し、企業活動の国内外に対する関連性・社会的責任を理解することができる			実務経験を通し、その内容を理解し、高専で学んだことと働くことを関連付けて考えることができる		実務経験を通し、その内容を理解し、自らの役割(立場)について日報や報告書に記述することができる (指示された通りに行動し、指示された提出物を期日厳守で提出する)	
就業経験および共同研究・受託研究を通して、研究開発の意義を学び、遂行することができる。	実務の内容と意義について理解し、自ら考え、関係者と相談しながら、実務を遂行することができる			実務の内容と意義について理解し、関係者と相談しながら、実務を遂行することができる		実務の内容と意義について理解し、意義に基づいて実務経験をし、その内容を日報や報告書に記述することができる (指示された通りに行動し、指示された提出物を期日厳守で提出する)	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	【概要】 学校教育と就業体験の結合により、より高い職業意識を育成し、自主性・創造性溢れる専門性高い人材生成を目指す。習得した専門知識を生かし、学外における実務研修により、実社会で必要な要素・能力(企画力、計画性、実行力、労働・契約の意義、コミュニケーション能力、情報管理など)を実践レベルで身につける。 1. 履修を希望する学生は、各コース科目担当教員の指導を受け、授業計画に基づいて、インターンシップを実施する。 2. 実際の現場で長期にわたって業務を体験することで、実践的な技術を理解する。 3. 長期間にわたる実務経験を通して、職業意識を向上させ、実社会に必要な素養・協調性・能力・価値観を身につける。 4. 学校教育と就業体験の結合により、より高い職業意識を育成し、自主性・創造性溢れる専門性高い人材生成を目指す。 5. 習得した専門知識を生かし、学外における実務研修により、実社会で必要な要素・能力(企画力、計画性、実行力、労働・契約の意義、コミュニケーション能力、情報管理など)を実践レベルで身につける。 別紙、「長期インターンシップ実施要領」を必ず読み、行動すること。 ◎単位数 ・1カ月:4単位 ・2カ月:8単位 ・3カ月以上:12単位						
授業の進め方・方法	・実施要項を参照すること 【成績評価など】 研修(日報による評価40%)および研修先の評価(40%)、およびインターンシップ報告書の内容(20%)で評価する。 。60%以上を合格とする。 【履修に必要な書類】 ・事前:受入許可書および日程表(この提出をもって履修許可とする)、履修願 ・事後:日報(または週報)、派遣先からの評価書、報告書(様式任意)、報告書(学校様式2)、発表会資料 ◎単位数 ・1カ月:4単位 ・2カ月:8単位 ・3カ月以上:12単位						
注意点							
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	講義内容説明・ガイダンス		インターンシップの意義と講義の進め方についてガイダンス		
		2週	インターンシップ先企業研究		企業研究、大学受け入れ先検討		

後期		3週	インターンシップ	約4週間の企業研修・大学での研究 ①企業における多様性を理解し、自らの進路としてキャリアデザインを構築することができる ②企業における社会的責任を理解できる ③企業活動が国内外の他社との関係性を理解できる 【6-3-1 VII-A】企業等における将来にわたるキャリアイメージをもとに、仕事とのマッチングを考えることができる 【6-3-1 VII-A】キャリアイメージを実現するために必要な自身の能力について考えることができ、それを高めようとする姿勢をとることができる。 【6-3-1 VII-A】企業あるいは技術者・研究者が持つべき仕事への責任を理解できる 【6-3-3 VII-C】自らの主体性や意欲の向上から、技術者に要求される創造的実践性、複眼的視野を持つことができる 【6-3-3 VII-C】品質、コスト、効率、スピード、納期などに対する視点を持つことができる 【6-3-3 VII-C】チームワーク力、リーダーシップ力、マネジメント力などを身に付けることができる			
		4週	インターンシップ	同上			
		5週	インターンシップ	同上			
		6週	インターンシップ	同上			
		7週	インターンシップ	同上			
		8週	インターンシップ	同上			
	2ndQ	9週	インターンシップ	同上			
		10週	インターンシップ	同上			
		11週	インターンシップ	同上			
		12週	インターンシップ	同上			
		13週	インターンシップ	同上			
		14週	インターンシップ	同上			
		15週	インターンシップ	同上			
		16週	インターンシップ	同上			
	3rdQ	1週	インターンシップ	同上			
		2週	インターンシップ	同上			
		3週	インターンシップ	同上			
		4週	インターンシップ	同上			
		5週	インターンシップ	同上			
		6週	インターンシップ	同上			
		7週	インターンシップ	同上			
		8週	インターンシップ	同上			
	4thQ	9週	インターンシップ	同上			
		10週	インターンシップ	同上			
		11週	インターンシップ	同上			
		12週	インターンシップ	同上			
		13週	インターンシップ	同上			
		14週	インターンシップ	同上			
		15週	インターンシップ	同上			
		16週	成果報告会				

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	レポート	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	100	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	25	0	25
専門的能力	0	0	0	0	25	0	25
分野横断的能力	0	0	0	0	50	0	50

沖縄工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	バイオマス利用工学	
科目基礎情報							
科目番号	6023		科目区分		専門 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	電子通信システム工学コース		対象学年		専1		
開設期	後期		週時間数		2		
教科書/教材	教材：教員自作プリント、パワーポイントなどプレゼン資料 参考図書：バイオマスハンドブック、バイオマス・エネルギー・環境、（キーワード：Biomass、バイオマス）						
担当教員	田邊 俊朗						
到達目標							
様々な情報収集と、討論による情報交換を行い、バイオマスとその有効利用に必要な前処理技術について理解する。技術者に必要とされるライフサイエンス・アースサイエンスの知識を有し、自らの工学の分野に関係するより複雑な課題に対しても応用できる。【II-E ライフサイエンス・アースサイエンス】							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		最低限必要な到達レベル (可)		
バイオマスとはどういうものかを説明できる。	バイオマスについて網羅的に説明できる		複数のバイオマスについて部分的に説明できる		一部のバイオマスについては、部分的に説明できる		
バイオマスの変換利用に必要な前処理について説明できる。	バイオマスの前処理について物理処理、化学処理、生物学的処理、複合処理について講義内容に基づいて全て説明できる。		バイオマスの前処理について2, 3の例を挙げて説明できる。		バイオマスの前処理について部分的に説明できる。		
バイオマスの有効利用が社会に及ぼす影響を理解する。	バイオマスの有効利用が社会に及ぼす影響を多面的に捉え深く理解できる。		バイオマスの有効利用が社会に及ぼす影響についてある一面からは良く理解できる。		バイオマスの有効利用が社会に及ぼす影響に興味を持ち、部分的に理解できる。		
バイオマスの有効利用についての知見を得る情報収集力と文献読解力を培い、とりまとめて発表出来る。	バイオマスの有効利用について多数の情報収集を行って、その内容を理解し発表出来る		バイオマスの有効利用について2、3の情報収集を行い、その内容を理解して発表出来る。		バイオマスの有効利用について興味を持ち、毎回1つの文献検索・読解と報告ができる。		
バイオマスの有効利用技術について討論できる。	報告した文献に関する質疑応答を通してバイオマスの有効利用技術について討論ができる。		報告した文献に関する質疑応答ができる。		報告した文献について内容に関する質問がなされたら答えられる。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	身近なものから始めてバイオマスについて理解できるよう、その変換と利用、解決すべき課題について講義する。						
授業の進め方・方法	講義と討論中心ではあるが、理解を深めるために実験・演習も行う。						
注意点	科目達成度目標①②③について60点満点の定期試験を行う。また、普段の学習・理解を重視し、検索した文献情報を報告させ、質疑応答を行う。各回の討論では、調査課題の発表を10点満点で評価する。またテーマに関連する質疑応答1回を1点として積算する。定期試験60%、発表10%、質疑応答点合計30%で成績を判断し100点満点中60点以上を合格とする。 ①自学自習欄の予習項目に関する文献検索と読解、報告用まとめの作成を課す。各2時間×15回 ②受講者全員の報告内容を共有し、復習としてまとめ報告書の提出を課す。各2時間×15回 この科目の主たる関連科目はバイオテクノロジー（専攻科1年）、酵素化学（専攻科1年）。（モデルコアカリキュラム）【MCC 5-2-5 II-E】（学位審査基準の要件による分類・適用） ・専門科目 ① ② ③ ④ A-2群 生物工学の応用に関する科目						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	バイオマスとバイオマス変換とは		バイオマス変換全般について概論を理解する。生態系における炭素の循環とエネルギーの流れについて説明できる。地球温暖化の問題点、原因と対策について理解している。		
		2週	キチン質の分布と前処理		自然界におけるキチン質の分布と、抽出法を学ぶ。		
		3週	キチン質関連酵素群		抽出されたキチン質の利用に関わる酵素について知る。		
		4週	キチン質誘導体の応用		キチン質オリゴマーの生理活性を学ぶ。免疫系による生体防御のしくみを理解する。		
		5週	リグノセルロースの分布と前処理		植物系バイオマスの分布と前処理全般を学ぶ。		
		6週	リグノセルロースの前処理2		微生物・マイクロ波複合型前処理について知る。		
		7週	リグノセルロース関連酵素		リグノセルロースの利用に関わる酵素群について学ぶ。		
		8週	リグノセルロースの変換1		エタノール変換について学ぶ。		
	4thQ	9週	リグノセルロースの変換2		メタン変換・水素変換について学ぶ。		
		10週	廃棄物系バイオマスの変換1		農業系廃棄物の変換利用を学習する。		
		11週	廃棄物系バイオマスの変換2		工業系廃棄物の変換利用を学ぶ。人間活動と地球環境の保全について考えることができる		
		12週	バイオマス変換実験1		シュレッダーで断片化した紙の糖化を実習する。		
		13週	バイオマス変換実験2		紙-糖化液からのエタノール変換を実習する。		
		14週	バイオマス変換実験3		エタノール濃度を測定し、変換効率を求める。		

		15週	食糧と競合しない バイオマス	未利用かつ非食用資源の変換について学ぶ。	
		16週	期末試験		
評価割合					
	定期試験	小テスト	レポート	その他（演習課題・発表・実技・成果物等）	合計
総合評価割合	60	0	0	40	100
基礎的理解	60	0	0	0	60
応用力（実践・専門・融合）	0	0	0	0	0
社会性（プレゼン・コミュニケーション・PBL）	0	0	0	40	40
主体的・継続的学習意欲	0	0	0	0	0

沖縄工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	創造システム工学セミナー一般
科目基礎情報						
科目番号	6024		科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	電子通信システム工学コース		対象学年	専1		
開設期	通年		週時間数	1		
教科書/教材						
担当教員	津村 卓也,高良 秀彦					
到達目標						
①広い視野・多角的視点から技術に必要な要素を学習し、技術者にとって何が必要かを理解する。 ②各講義における目的を理解する。						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
広い視野・多角的視点から技術に必要な要素を学習し、技術者にとって何が必要かを理解する		講義内容を理解し、その分野における問題点を適切にわかりやすく説明できる	講義内容を理解し、その分野における問題点を説明できる	講義内容を適切に説明できる		
各講義における目的を理解する		講義の目的と自らの専門分野を関連付けて示すことができる	講義の目的と自らの専門分野を関連性がわかる	講義の目的を示すことができる		
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	学内で開催される技術者講演会や高専機構・3機関連携で配信される技術者講演会を講義の対象とする。したがって、内容は毎年変更される。					
授業の進め方・方法	学内で開催される技術者講演会や高専機構・3機関連携で配信される技術者講演会を講義の対象とする。したがって、内容は毎年変更される。					
注意点	1コマ15回以上の聴講およびレポート提出で採点対象となる。履修希望者は、事前に担当教員に履修申請を行い、教務係で集中講義履修の手続きを行う。 【レポート内容必須事項】講演会日時、タイトル、講演者、講演内容の目的、講演内容、講義から得られた知見					
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	特別講演会	講演内容を理解し、要点を的確にまとめることができる		
		2週	特別講演会	講演内容を理解し、要点を的確にまとめることができる		
		3週	特別講演会	講演内容を理解し、要点を的確にまとめることができる		
		4週	特別講演会	講演内容を理解し、要点を的確にまとめることができる		
		5週	特別講演会	講演内容を理解し、要点を的確にまとめることができる		
		6週	特別講演会	講演内容を理解し、要点を的確にまとめることができる		
		7週	特別講演会	講演内容を理解し、要点を的確にまとめることができる		
		8週	特別講演会	講演内容を理解し、要点を的確にまとめることができる		
	2ndQ	9週	特別講演会	講演内容を理解し、要点を的確にまとめることができる		
		10週	特別講演会	講演内容を理解し、要点を的確にまとめることができる		
		11週	特別講演会	講演内容を理解し、要点を的確にまとめることができる		
		12週	特別講演会	講演内容を理解し、要点を的確にまとめることができる		
		13週	特別講演会	講演内容を理解し、要点を的確にまとめることができる		
		14週	特別講演会	講演内容を理解し、要点を的確にまとめることができる		
		15週	特別講演会	講演内容を理解し、要点を的確にまとめることができる		
		16週	企業技術者講演会	講演内容を理解し、要点を的確にまとめることができる		
後期	3rdQ	1週	企業技術者講演会	講演内容を理解し、要点を的確にまとめることができる		
		2週	企業技術者講演会	講演内容を理解し、要点を的確にまとめることができる		
		3週	企業技術者講演会	講演内容を理解し、要点を的確にまとめることができる		

		4週	企業技術者講演会	講演内容を理解し、要点を的確にまとめることができる
		5週	企業技術者講演会	講演内容を理解し、要点を的確にまとめることができる
		6週	企業技術者講演会	講演内容を理解し、要点を的確にまとめることができる
		7週	企業技術者講演会	講演内容を理解し、要点を的確にまとめることができる
		8週	企業技術者講演会	講演内容を理解し、要点を的確にまとめることができる
	4thQ	9週	企業技術者講演会	講演内容を理解し、要点を的確にまとめることができる
		10週	企業技術者講演会	講演内容を理解し、要点を的確にまとめることができる
		11週	企業技術者講演会	講演内容を理解し、要点を的確にまとめることができる
		12週	企業技術者講演会	講演内容を理解し、要点を的確にまとめることができる
		13週	企業技術者講演会	講演内容を理解し、要点を的確にまとめることができる
		14週	企業技術者講演会	講演内容を理解し、要点を的確にまとめることができる
		15週	企業技術者講演会	講演内容を理解し、要点を的確にまとめることができる
		16週		

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	50	50
専門的能力	0	0	0	0	0	50	50
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

沖縄工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	創造システム工学セミナー専門
科目基礎情報						
科目番号	6025		科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	電子通信システム工学コース		対象学年	専1		
開設期	通年		週時間数	1		
教科書/教材						
担当教員	津村 卓也,高良 秀彦					
到達目標						
①専門分野に特化した技術に必要な要素を学習し、技術者にとって何が必要かを理解する。 ②各講義における目的を理解する。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
専門分野に特化した技術に必要な要素を学習し、技術者にとって何が必要かを理解する	講義内容を理解し、その分野における問題点を適切にわかりやすく説明できる		講義内容を理解し、その分野における問題点を説明できる		講義内容を適切に説明できる	
各講義における目的を理解する	講義の目的と自らの専門分野を関連付けて示すことができる		講義の目的と自らの専門分野を関連性がわかる		講義の目的を示すことができる	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	協定校や連携企業で実施される専門分野を主とした講義・インターンシップなどで実習以外の講習・講義などの履修も可とする。単位数は、受講時間によって異なり、30時間：2単位、60時間：4単位、90時間：6単位、120時間：8単位を付与する。					
授業の進め方・方法	受講先でレポートなどを提出し、受講証明を発行してもらう。					
注意点	履修希望者は、事前に担当教員に履修申請を行い、教務係で集中講義履修の手続きを行う。 【レポート内容必須事項】受講時間、受講内容、講義から得られた知見。受講先で提出したレポートや課題、受講先からの受講証明を添付すること。					
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	講義内容説明・ガイダンス 1時間：派遣先で指定する講義		講義内容を十分に理解し、簡潔にまとめることができる	
		2週	各派遣先での講義 30～120時間：派遣先での講義		講義内容を十分に理解し、報告書及びプレゼン資料を的確に作成することができる	
		3週	最終レポート 2時間		定められた書式で、的確にレポートをまとめることができる	
		4週				
		5週				
		6週				
		7週				
		8週				
	2ndQ	9週				
		10週				
		11週				
		12週				
		13週				
		14週				
		15週				
		16週				
後期	3rdQ	1週				
		2週				
		3週				
		4週				
		5週				
		6週				
		7週				
		8週				
	4thQ	9週				
		10週				
		11週				
		12週				
		13週				
		14週				

		15週		
		16週		

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	30	30
専門的能力	0	0	0	0	0	70	70
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

沖縄工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	品質・安全マネジメント特論	
科目基礎情報							
科目番号	6033			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	電子通信システム工学コース			対象学年	専1		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	教員自作プリント及びパワーポイント						
担当教員	眞喜志 隆,中平 勝也,玉城 龍洋,伊東 昌章,沖田 紀子						
到達目標							
①工業製品の品質及び安全に関する基本的な考え方を学び、実践することができる。 ②製造における品質及び安全マネジメントの重要性、並びに製造責任や倫理観について理解し、実践することができる							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		日地洋最低限な到達レベルの目安 (可)	
各種工業製品の品質管理に関する知識を身につけ、定量的に記述・解析することができる (機A-2、情A-2、メA-1,C-2、生A-2)	授業で学習した内容と関連付けながら、ISO9001シリーズ、UL等の製品安全規格の概要について、それらの要点を説明できる。			教材・参考図書等に従い、ISO9001シリーズ、UL等の製品安全規格の概要について、その要点を多角的に説明できる。		講義資料・参考図書等を参照しながら、ISO9001シリーズ、UL等の製品安全規格の概要について説明できる。	
製品安全に関する知識を身につけ、定量的に記述・解析することができる (機A-2,C-2、情A-2,C-2、メA-1,C-2、生A-2,C-1)	授業で学習した内容と関連付けながら、品質・安全管理に関する手法について、それらの要点を説明できる。			教材・参考図書等に従い、品質・安全管理に関する手法について、その要点を多角的に説明できる。		講義資料・参考図書等を参照しながら、品質・安全管理に関する手法について基本的な用語や考え方を説明できる。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	この科目は、品質管理、安全管理について実務経験者がそれぞれの企業における経験を活かした講義を行うとともに、全15週のうちの4週の授業は、企業で品質管理等の業務に従事する者が担当する。 ①工業製品の品質及び安全に関する基本的な考え方を学ぶ。 ②製造における品質及び安全マネジメントの重要性、並びに製造責任や倫理観について理解する。 【オムニバス方式】						
授業の進め方・方法	各コース分野に関わりの深い工業製品を題材に、各コースの担当教員がオムニバス形式で講義をおこなう。 大まかな講義の方針 ①各学科で計11回+航空で4回で行う。 ②各学科分には技術史を入れる。 ③各学科でグループワークを入れる。						
注意点	製品安全、ものづくり、食品、ソフトウェアの各分野について、品質・安全に関する課題レポートにて理解度を見る。 (各25%)						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス・組織における品質と安全のマネジメント (航)		品質と安全の概念と、ISOマネジメントシステムの考え方を説明できる		
		2週	生産工程における品質と安全 (航)		ものづくりの現場における品質の管理と安全の管理の概要を説明できる		
		3週	製品安全規格 (航)		機械および電気設備の製品安全規格 (UL等) の概要を説明できる		
		4週	電気・電子分野		半導体や電子デバイスのハードウェア設計を例に企業側の視点を理解できる		
		5週	情報分野		ソフトウェアに関連した、品質・安全管理に対する企業側の視点を理解できる		
		6週	生物分野①		食品偽装問題を例に、食品の品質や安全に対する企業側の視点を理解できる		
		7週	生物分野②		食品偽装問題を例に、食品の品質や安全に対する企業側の視点を理解できる		
		8週	技術史 (機械分野)		機械分野における技術史の概要を説明できる		
	4thQ	9週	技術史 (電気・電子分野)		電子通信分野における技術史の概要を説明できる		
		10週	航空分野①		航空分野からの品質・安全管理に対する企業側の視点を理解できる		
		11週	航空分野②		航空分野からの品質・安全管理に対する企業側の視点を理解できる		
		12週	航空分野③		航空分野からの品質・安全管理に対する企業側の視点を理解できる		
		13週	航空分野④		航空分野からの品質・安全管理に対する企業側の視点を理解できる		
		14週	技術史 (情報分野)		情報分野における技術史の概要を説明できる		
		15週	技術史 (生物資源分野)		生物資源分野における技術史の概要を説明できる		
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	レポート	合計
総合評価割合	0	30	0	0	0	70	100
基礎的能力	0	10	0	0	0	15	25

專門的能力	0	10	0	0	0	15	25
分野横断的能力	0	10	0	0	0	40	50

沖縄工業高等専門学校	開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	特別研究IA
科目基礎情報				
科目番号	6201_a	科目区分	専門 / 必修	
授業形態	実験・実習	単位の種別と単位数	学修単位: 3	
開設学科	電子通信システム工学コース	対象学年	専1	
開設期	前期	週時間数	3	
教科書/教材	教員が配布する資料			
担当教員	高良 秀彦,神里 志穂子,金城 伊智子,谷藤 正一,山田 親稔,宮城 桂,亀濱 博紀,中平 勝也			
到達目標				
①研究テーマにおいて解決すべき課題を認識し、目的・目標を設定できること ②課題解決のための研究計画を立案し、それに基づき研究を自主的に遂行できること ③これまで学んだ知識を総合し、問題解決の方法を見出せること ④技術者・研究者としての社会的責任を自覚し、倫理観をもって研究に取り組めること ⑤研究に関係する他者と協調して研究遂行するためのコミュニケーションができること ⑥研究内容を論文として論理的で簡潔な科学技術文章としてまとめるとともに、他者に明確に説明できるプレゼンテーション能力を身につけること 【VIII-A】 相手を理解した上で、説明の方法を工夫しながら、自分の意見や考えをわかりやすく伝え、十分な理解を得てい 【VIII-B】 目的達成のために、考えられる提案の中からベターなものを選び合意形成の上で 実現していくことができ、さらに、合意形成のための支援ができ 【VIII-C】 ICTやICTツール、文書等を自らの専門分野において情報収集や情報発信に活用 できる。 【VIII-D】 現状と目標を把握し、その乖離の中に課題を見つけ、課題の因果関係や優先度を 理解し、発見した課題について主要な原因を見出し、論理的に解決策を立案し、具 体的な実行策を絞り込むことができる。 【VIII-E】 複雑な事象の本質を整理し、構造化（誰が見てもわかりやすく）できる。結論の推定 をするために、必要な条件を加え、要約・整理した内容から多様な観点を示し、自 分の意見や手順を論理的に展開できる。 【IX-F】 法令を理解し遵守する。研究などで使用する、他者のおかれている状況を理解でき る。自分が関係している技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解し、技術者 が社会に負っている責任を認識し、身近で起こる関連した情報や見解の収集に努 めるなど、技術の成果が社会に受け入れられるよう行動できる。				
ルーブリック				
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
研究テーマにおいて解決すべき課題を認識し、目的・目標を設定できること	研究背景に基づいて、自ら目標設定ができている	研究背景に基づいて、教員と相談して、目標設定ができている	各発表やレポートにおいて、目標を述べている	
課題解決のための研究計画を立案し、それに基づき研究を自主的に遂行できること	研究課題に対して、自らの適性を考えて、研究計画を立て、それに基づいて研究を遂行できる	研究課題に対して、自らの適性を考え、教員と相談して、研究計画を立て、それに基づいて研究を遂行できる	進捗状況を報告することができる	
これまで学んだ知識を総合し、問題解決の方法を見出せること	実験・実習結果から問題点を自ら見出し、問題解決に繋げることができる	実験・実習結果から問題点を見出し、教員と相談して、問題解決に繋げることができる	図表を駆使して、自らの成果を説明できる	
技術者・研究者としての社会的責任を自覚し、倫理観をもって研究に取り組めること	社会的に影響のある研究内容については、指導教員などに相談することができる	他者の成果や文献を引用し、それを適切に示すことができる	他者の成果や文献を引用することができる 社会的に影響のある内容の分別をつけることができる	
研究に関係する他者と協調して研究遂行するためのコミュニケーションができること	研究に対する質問やコメントなどを真摯に受け止め、議論することができる	研究に対する質問やコメントなどに回答することができる	研究室のゼミや研究打合せなどを行うことができる	
研究内容を論文として論理的で簡潔な科学技術文章としてまとめるとともに、他者に明確に説明できるプレゼンテーション能力を身につけること	実験研究内容を論理的に報告書としてまとめることができる また、その内容を簡潔にまとめてプレゼンテーションすることができる	研究成果を論文としてまとめることができる	中間発表や最終発表だけでなく、学会などで発表することができる	
学科の到達目標項目との関係				
教育方法等				
概要	特別研究では、設定したテーマに関して、これまで講義や実験などで学んできた学修科目との関連性を考えながら、問題点や課題点を抽出し、課題の設定、実験計画の策定、実験実施、結果分析の一連のプロセスを自主的、計画的に遂行できる能力を育成する。 課題テーマに関する報告書・論文の作成と発表を通じて論理的で簡潔な科学技術文書の作成技術、明瞭で的確な表現によるプレゼンテーションの能力を身につける。 研究テーマ詳細については、特別研究指導教員のテーマ内容および授業計画（配布資料）を参照すること。 【複数教員担当方式】			
授業の進め方・方法	研究テーマ詳細については、特別研究指導教員のテーマ内容および授業計画（配布資料）を参照すること。 成績の評価は以下の方法で実施する。 中間発表(20%)、報告書(60%)、研究・履修計画書(10%)、進捗状況報告(10%)			

注意点	【自学自習時間に対する対応】 ・論文・資料調査 各2時間×30週 ・研究計画書と実験ノートの作成 各1時間×30週 ・実験や実習（予備実験・追加実験など） 【その他】 （モデルコアカリキュラム） ・対応するモデルコアカリキュラム(MCC)の学習到達目標、学習内容およびその到達目標を【】内の記号・番号で示す。 （航空技術者プログラム） ・【航】は航空技術者プログラムの対応項目であることを意味する。 （学位審査基準の要件による分類・適用） ・科目区分 専門科目 B 電気電子工学に関する実験・実習科目 【この科目の主たる関連科目】各教員の個表に記載 【研究テーマおよび担当教員】 ・弾性波・半導体を利用したデバイス応用に関する研究（兼城 千波 教授） ・OR 分野に関する研究（金城 伊智子 教授） ・光通信用ファイバ・デバイスおよびシステムに関する研究（高良 秀彦 教授、相川 洋平 助教） ・無線通信用 RF デバイスおよび衝撃波とその関連技術に関する研究（谷藤 正一 教授） ・マイクロ波・ミリ波領域における電子部品及びそれらを用いたシステム応用に関する研究（藤井 知 教授） ・システム LSI 設計に関する研究（山田 親稔 教授、宮城 桂 講師） ・ヒューマン情報処理に関する研究（神里 志穂子 准教授） ・通信ネットワークシステムにおけるアクセス制御に関する研究（中平 勝也 准教授）

授業の属性・履修上の区分

☒ アクティブラーニング	☐ ICT 利用	☐ 遠隔授業対応	☐ 実務経験のある教員による授業
--	---------------------------------	---------------------------------	---

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	調査研究・課題・研究計画・実験	テーマ設定・課題抽出・研究計画の作成
		2週	調査研究・課題・研究計画・実験	各テーマの内容・進捗状況による
		3週	調査研究・課題・研究計画・実験	各テーマの内容・進捗状況による
		4週	調査研究・課題・研究計画・実験	各テーマの内容・進捗状況による
		5週	調査研究・課題・研究計画・実験	各テーマの内容・進捗状況による
		6週	調査研究・課題・研究計画・実験	各テーマの内容・進捗状況による
		7週	調査研究・課題・研究計画・実験	各テーマの内容・進捗状況による
		8週	中間報告	
	2ndQ	9週	調査研究・課題・研究計画・実験	各テーマの内容・進捗状況による
		10週	調査研究・課題・研究計画・実験	各テーマの内容・進捗状況による
		11週	調査研究・課題・研究計画・実験	各テーマの内容・進捗状況による
		12週	調査研究・課題・研究計画・実験	各テーマの内容・進捗状況による
		13週	調査研究・課題・研究計画・実験	各テーマの内容・進捗状況による
		14週	調査研究・課題・研究計画・実験	各テーマの内容・進捗状況による
		15週	調査研究・課題・研究計画・実験	各テーマの内容・進捗状況による
		16週	最終報告	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	20	20
専門的能力	0	0	0	0	0	40	40
分野横断的能力	0	0	0	0	0	40	40

沖縄工業高等専門学校	開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	特別研究IB
科目基礎情報				
科目番号	6201_b	科目区分	専門 / 選択	
授業形態	実験・実習	単位の種別と単位数	学修単位: 3	
開設学科	電子通信システム工学コース	対象学年	専1	
開設期	後期	週時間数	3	
教科書/教材	教員が配布する資料			
担当教員	高良 秀彦,神里 志穂子,金城 伊智子,谷藤 正一,山田 親稔,宮城 桂,亀濱 博紀,中平 勝也			
到達目標				
①研究テーマにおいて解決すべき課題を認識し、目的・目標を設定できること ②課題解決のための研究計画を立案し、それに基づき研究を自主的に遂行できること ③これまで学んだ知識を総合し、問題解決の方法を見出せること ④技術者・研究者としての社会的責任を自覚し、倫理観をもって研究に取り組めること ⑤研究に関係する他者と協調して研究遂行するためのコミュニケーションができること ⑥研究内容を論文として論理的で簡潔な科学技術文章としてまとめるとともに、他者に明確に説明できるプレゼンテーション能力を身につけること 【VIII-A】 相手を理解した上で、説明の方法を工夫しながら、自分の意見や考えをわかりやすく伝え、十分な理解を得てい 【VIII-B】 目的達成のために、考えられる提案の中からベターなものを選び合意形成の上で 実現していくことができ、さらに、合意形成のための支援ができ 【VIII-C】 ICTやICTツール、文書等を自らの専門分野において情報収集や情報発信に活用 できる。 【VIII-D】 現状と目標を把握し、その乖離の中に課題を見つけ、課題の因果関係や優先度を 理解し、発見した課題について主要な原因を見出し、論理的に解決策を立案し、具 体的な実行策を絞り込むことができる。 【VIII-E】 複雑な事象の本質を整理し、構造化（誰が見てもわかりやすく）できる。結論の推定 をするために、必要な条件を加え、要約・整理した内容から多様な観点を示し、自 分の意見や手順を論理的に展開できる。 【IX-F】 法令を理解し遵守する。研究などで使用する、他者のおかれている状況を理解でき る。自分が関係している技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解し、技術者 が社会に負っている責任を認識し、身近で起こる関連した情報や見解の収集に努 めるなど、技術の成果が社会に受け入れられるよう行動できる。				
ルーブリック				
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
研究テーマにおいて解決すべき課題を認識し、目的・目標を設定できること	研究背景に基づいて、自ら目標設定ができている	研究背景に基づいて、教員と相談して、目標設定ができている	各発表やレポートにおいて、目標を述べている	
課題解決のための研究計画を立案し、それに基づき研究を自主的に遂行できること	研究課題に対して、自らの適性を考えて、研究計画を立て、それに基づいて研究を遂行できる	研究課題に対して、自らの適性を考え、教員と相談して、研究計画を立て、それに基づいて研究を遂行できる	進捗状況を報告することができる	
これまで学んだ知識を総合し、問題解決の方法を見出せること	実験・実習結果から問題点を自ら見出し、問題解決に繋げることができる	実験・実習結果から問題点を見出し、教員と相談して、問題解決に繋げることができる	図表を駆使して、自らの成果を説明できる	
技術者・研究者としての社会的責任を自覚し、倫理観をもって研究に取り組めること	社会的に影響のある研究内容については、指導教員などに相談することができる	他者の成果や文献を引用し、それを適切に示すことができる	他者の成果や文献を引用することができる 社会的に影響のある内容の分別をつけることができる	
研究に関係する他者と協調して研究遂行するためのコミュニケーションができること	研究に対する質問やコメントなどを真摯に受け止め、議論することができる	研究に対する質問やコメントなどに回答することができる	研究室のゼミや研究打合せなどを行うことができる	
研究内容を論文として論理的で簡潔な科学技術文章としてまとめるとともに、他者に明確に説明できるプレゼンテーション能力を身につけること	実験研究内容を論理的に報告書としてまとめることができる また、その内容を簡潔にまとめてプレゼンテーションすることができる	研究成果を論文としてまとめることができる	中間発表や最終発表だけでなく、学会などで発表することができる	
学科の到達目標項目との関係				
教育方法等				
概要	特別研究では、設定したテーマに関して、これまで講義や実験などで学んできた学修科目との関連性を考えながら、問題点や課題点を抽出し、課題の設定、実験計画の策定、実験実施、結果分析の一連のプロセスを自主的、計画的に遂行できる能力を育成する。 課題テーマに関する報告書・論文の作成と発表を通じて論理的で簡潔な科学技術文書の作成技術、明瞭で的確な表現によるプレゼンテーションの能力を身につける。 研究テーマ詳細については、特別研究指導教員のテーマ内容および授業計画（配布資料）を参照すること。 【複数教員担当方式】			
授業の進め方・方法	研究テーマ詳細については、特別研究指導教員のテーマ内容および授業計画（配布資料）を参照すること。 成績の評価は以下の方法で実施する。 中間発表(20%)、報告書(60%)、研究・履修計画書(10%)、進捗状況報告(10%)			

注意点	【自学自習時間に対する対応】 ・論文・資料調査 各2時間×30週 ・研究計画書と実験ノートの作成 各1時間×30週 ・実験や実習（予備実験・追加実験など） 【その他】 （モデルコアカリキュラム） ・対応するモデルコアカリキュラム(MCC)の学習到達目標、学習内容およびその到達目標を【】内の記号・番号で示す。 （航空技術者プログラム） ・【航】は航空技術者プログラムの対応項目であることを意味する。 （学位審査基準の要件による分類・適用） ・科目区分 専門科目 B 電気電子工学に関する実験・実習科目 【この科目の主たる関連科目】 各教員の個表に記載 【研究テーマおよび担当教員】 ・弾性波・半導体を利用したデバイス応用に関する研究（兼城 千波 教授） ・OR 分野に関する研究（金城 伊智子 教授） ・光通信用ファイバ・デバイスおよびシステムに関する研究（高良 秀彦 教授、相川 洋平 助教） ・無線通信用 RF デバイスおよび衝撃波とその関連技術に関する研究（谷藤 正一 教授） ・マイクロ波・ミリ波領域における電子部品及びそれらを用いたシステム応用に関する研究（藤井 知 教授） ・システム LSI 設計に関する研究（山田 親稔 教授、宮城 桂 講師） ・ヒューマン情報処理に関する研究（神里 志穂子 准教授） ・通信ネットワークシステムにおけるアクセス制御に関する研究（中平 勝也 准教授）

授業の属性・履修上の区分

☒ アクティブラーニング	☐ ICT 利用	☐ 遠隔授業対応	☐ 実務経験のある教員による授業
--	---------------------------------	---------------------------------	---

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	調査研究・課題・研究計画・実験	テーマ設定・課題抽出・研究計画の作成・各テーマの進捗状況による
		2週	調査研究・課題・研究計画・実験	テーマ設定・課題抽出・研究計画の作成・各テーマの進捗状況による
		3週	調査研究・課題・研究計画・実験	テーマ設定・課題抽出・研究計画の作成・各テーマの進捗状況による
		4週	調査研究・課題・研究計画・実験	テーマ設定・課題抽出・研究計画の作成・各テーマの進捗状況による
		5週	調査研究・課題・研究計画・実験	テーマ設定・課題抽出・研究計画の作成・各テーマの進捗状況による
		6週	調査研究・課題・研究計画・実験	テーマ設定・課題抽出・研究計画の作成・各テーマの進捗状況による
		7週	調査研究・課題・研究計画・実験	テーマ設定・課題抽出・研究計画の作成・各テーマの進捗状況による
		8週	調査研究・課題・研究計画・実験	テーマ設定・課題抽出・研究計画の作成・各テーマの進捗状況による
	4thQ	9週	調査研究・課題・研究計画・実験	テーマ設定・課題抽出・研究計画の作成・各テーマの進捗状況による
		10週	調査研究・課題・研究計画・実験	テーマ設定・課題抽出・研究計画の作成・各テーマの進捗状況による
		11週	調査研究・課題・研究計画・実験	テーマ設定・課題抽出・研究計画の作成・各テーマの進捗状況による
		12週	調査研究・課題・研究計画・実験	テーマ設定・課題抽出・研究計画の作成・各テーマの進捗状況による
		13週	調査研究・課題・研究計画・実験	テーマ設定・課題抽出・研究計画の作成・各テーマの進捗状況による
		14週	調査研究・課題・研究計画・実験	テーマ設定・課題抽出・研究計画の作成・各テーマの進捗状況による
		15週	調査研究・課題・研究計画・実験	テーマ設定・課題抽出・研究計画の作成・各テーマの進捗状況による
		16週	最終報告	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	20	20
専門的能力	0	0	0	0	0	40	40
分野横断的能力	0	0	0	0	0	40	40

沖縄工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	シミュレーション工学	
科目基礎情報							
科目番号	6204			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	電子通信システム工学コース			対象学年	専1		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	Javaで学ぶシミュレーションの基礎（森北出版）Excelで学ぶ理工系シミュレーション入門（CQ出版）シミュレーション工学（朝倉書店）						
担当教員	金城 伊智子						
到達目標							
①～⑦に示すシミュレーションの基礎的原理、手法が理解でき、使えるようになる。各シミュレーションのモデルを説明できる。各シミュレーションの要求仕様に従って、標準的な手法により実効効率に考慮したプログラムを設計できる。 ①運動のシミュレーションが行える（A-3） ②化学反応のシミュレーションが行える（A-3） ③生態系のシミュレーションが行える（A-3） ④拡散のシミュレーションが行える（A-3） ⑤移流と発生のシミュレーションが行える（A-3） ⑥常微分方程式の数値計算ができる（A-3） ⑦偏微分方程式の数値計算ができる（A-3） 【IV】工学リテラシー（各種基本的データ測定法、データ処理）、技術者倫理（法令遵守を含む）、知的財産、持続可能性、情報倫理、技術史、グローバル化、異文化(多文化) 理解のための知識を有し、技術者としてより複雑な課題において活用できる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		最低限必要な到達レベルの目安(可)	
電気・機械・化学など複雑な現象に対し、統合的なモデルが構築出来、マルチフィジックスシミュレーションが行い、科学的かつ定量的に分析が行える		複雑な自然現象に対し、適切なモデルを構築と、適切な解析条件が、自ら、設定出来、マルチフィジックスシミュレーションが行え、実際の現象と比較しながら、科学的・定量的に、議論できる。		例示されたアルゴリズムに従って、シミュレーションを実行することができる。		サンプルのシミュレーションをそのまま実行することができる。	
有限要素法などの数値解析について原理的な説明が出来る。		有限要素法などの数値解析について、その特徴や欠点について述べる事が出来、解析結果の妥当性について説明できる。		有限要素法などの数値解析について、その特徴や欠点について述べる事が出来る。		数値解析の特徴について述べる事が出来る。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		①～⑦に示すシミュレーションの基礎的原理について講義する。 ①運動のシミュレーション ②化学反応のシミュレーション ③生態系のシミュレーション ④拡散のシミュレーション ⑤移流と発生のシミュレーション ⑥常微分方程式の数値計算 ⑦偏微分方程式の数値計算					
授業の進め方・方法		物理現象や社会現象をモデル化する方法とそのモデル式を講義したのち、Excelを用いてシミュレータを作成する。授業中に終えることのできなかった課題は、自学自習時間で達成すること。					
注意点		ほとんど毎回課題を出すので、提出期限を守ること。					
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス		シミュレーションとは何かを理解できる。		
		2週	微積分のシミュレーション		微積分の数値計算方法を理解できる。		
		3週	運動のシミュレーション		運動方程式を数値計算で解くことができる。		
		4週	化学反応のシミュレーション1		化学反応のモデル化と数値計算法について理解する。		
		5週	化学反応のシミュレーション2		化学反応のモデル化と数値計算法を用いて計算できる。		
		6週	生態系のシミュレーション		増殖や捕食者/被食者のモデルと数値計算法について理解できる。		
		7週	拡散のシミュレーション		拡散現象のモデル化と数値計算について理解できる。		
		8週	移流と発生のシミュレーション1		移流と発生のモデル化と数値計算法について理解できる。		
	4thQ	9週	移流と発生のシミュレーション2		移流と発生のモデル化と数値計算法を用いて計算できる。		
		10週	常微分方程式の数値計算法1		常微分方程式の種類と数値計算法について理解できる。		
		11週	常微分方程式の数値計算法2		連立常微分方程式の数値計算法について理解し、シミュレート例を作成することができる。		
		12週	常微分方程式の数値計算法3		高階常微分方程式の数値計算法について理解し、シミュレート例を作成することができる。		
		13週	偏微分方程式の数値計算法1		ラプラス方程式の数値計算法について理解し、シミュレート例を作成することができる。		
		14週	偏微分方程式の数値計算法2		ポアソ方程式の数値計算法について理解し、シミュレート例を作成することができる。		

		15週	偏微分方程式の数値計算法3			波動方程式の数値計算法について理解し、シミュレート例を作成することができる。	
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	15	0	85	100
基礎的能力	0	0	0	5	0	45	50
専門的能力	0	0	0	5	0	40	45
分野横断的能力	0	0	0	5	0	0	5

沖縄工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	数理計画法
科目基礎情報						
科目番号	6205		科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	電子通信システム工学コース		対象学年	専1		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	教員自作のプリント, パワーポイントの資料					
担当教員	神里 志穂子					
到達目標						
"最適化やモデル化手法と線形計画などのアルゴリズムに関して理解する。 【V-D-7】 ①最適化の概念やモデル化手法の基礎を理解する 【V-D-7】 ②線形計画の基本的なアルゴリズムを理解する 【V-D-7】 ③非線形計画の基本的なアルゴリズムを理解する"						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
最適化の概念やモデル化手法の基礎を理解する。	これまでに学習した他の科目と関連付けながら最適化の概念と現象のモデル化に関する説明ができる		教科書や資料に従って最適化の概念と現象のモデル化の要点を説明できる		教科書や資料を見ながら最適化の概念と現象のモデル化の説明ができる	
線形計画の基本的なアルゴリズムを理解する。	これまでに学習した他の科目と関連付けながら線形計画問題に関する説明ができる		教科書や資料に従って線形計画問題に関する説明の要点を説明できる		教科書や資料を見ながら線形計画問題に関する説明ができる	
非線形計画の基本的なアルゴリズムを理解する。	これまでに学習した他の科目と関連付けながら非線形計画問題に関する説明ができる		教科書や資料に従って非線形計画問題に関する説明の要点を説明できる		教科書や資料を見ながら非線形計画問題に関する説明ができる	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	講義では、最適化問題について例題をあげ、線形計画、非線形計画、ネットワーク計画について基本的な理論を学習し、生産計画問題や最短経路問題などを通して、基本的な概念について理解を深める					
授業の進め方・方法	最適化問題に対して基本的な概念を学び、その計算方法のアルゴリズムを習得する。					
注意点						
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス, 最適化問題の役割・概念	1年間の授業の進め方や課題の提出方法を説明する。最適化問題の役割や概念を学習する		
		2週	線形計画問題	線形計画問題と定式化について学習する		
		3週	標準形の線形計画問題	線形計画問題の標準形に関して学修する		
		4週	シンプレックス法	シンプレックス法に関して学習する		
		5週	シンプレックスタブロー	タブローを用いた手法に関して学習する		
		6週	2段階シンプレックス法	2段階シンプレックス法に関して学習する		
		7週	2段階シンプレックス法	2段階シンプレックス法に関して学習する		
		8週	中間試験			
	4thQ	9週	改訂シンプレックス法	改訂シンプレックス法に関して学習する		
		10週	双対問題	線形計画における双対性に関して学習する		
		11週	感度解析	感度分析に関して学習する		
		12週	整数計画問題	ナップサック問題に関して学習する		
		13週	整数計画問題	スケジューリング問題に関して学習する		
		14週	非線形計画法	非線形計画問題に関して学習する		
		15週	非線形計画法	非線形問題の最適化手法に関して学習する		
		16週	期末試験			
評価割合						
	定期試験	小テスト	レポート	その他	合計	
総合評価割合	80	0	0	20	100	
基礎的能力	60	0	0	10	70	
専門的能力	20	0	0	0	20	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	
主体的・継続的学修意欲	0	0	0	10	10	

沖縄工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	信号処理特論
科目基礎情報						
科目番号	6208		科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	電子通信システム工学コース		対象学年	専1		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	教員自作のプリント, パワーポイントの資料 参考図書: 「PYTHON対応デジタル信号処理」 (森北出版)					
担当教員	中平 勝也					
到達目標						
信号処理の基本的な用語や考え方と、時間領域と周波数領域とフーリエ変換を理解した上で、デジタルフィルタの基本を設計できることを目標とする。 【V-C-7】 制御: 伝達関数、システムの応答、フィードバック系の安定判別等制御工学に関する基本的な理論を説明できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		最低限の到達レベルの目安(可)	
評価項目1 信号処理の基本的な用語や考え方と、時間領域と周波数領域とフーリエ変換を理解できる。	これまでに学習した他の科目と関連付けながら信号処理と実問題に対応付けながら説明ができる。		教科書や資料に従って信号処理の概念の要点を説明できる。		教科書や資料を見ながら信号処理の概念の説明ができる。	
評価項目2 デジタルフィルタの基本を設計できる	これまでに学習した他の科目と関連付けながらデジタルフィルタに関しての説明と実装ができる。		教科書や資料に従ってデジタルフィルタに関しての要点の説明と実装ができる。		教科書や資料を見ながらデジタルフィルタに関しての説明ができる	
評価項目3 デジタル信号処理に関する応用演習および自発的・継続的な学習を身につける。	これまでに学習した他の科目と関連付けながらデジタル信号処理に必要な計算ができる。		教科書や資料に従ってデジタル信号処理に必要な計算ができる。		教科書や資料を見ながらデジタル信号処理に必要な計算ができる。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	通信および情報工学の分野の基盤である信号処理の基礎と応用を習得する。					
授業の進め方・方法	授業は講義形式で、章毎にレポートを課す。自分のノートを作ること。演習はすべて解くこと。					
注意点	(各科目個別記述) ・この科目の主たる関連科目は、離散数学 (3年)、信号処理 (4年)、◎情報理論 (5年)、◎生体情報工学 (専攻科2年) である。 (モデルコアカリキュラム) ・対応するモデルコアカリキュラム(MCC)の学習到達目標、学習内容およびその到達目標を【】内の記号・番号で示す。 (航空技術者プログラム) ・【航】は航空技術者プログラムの対応項目であることを意味する。 (学位審査基準の要件による分類・適用) 科目区分: 【A群 (講義・演習科目)】 情報通信工学に関する科目					
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	授業ガイダンス、信号処理の基礎	シラバスを用いて、授業の進め方を説明する。また、信号処理の基礎を復習する。		
		2週	信号処理の基礎	フーリエ変換など信号処理の基礎を復習する。		
		3週	デジタルフィルタの基礎	デジタルフィルタの基本的な役割や概要を学ぶ。		
		4週	デジタルフィルタの基礎	たたみこみ表現、接続、安定性と因果性について学ぶ。		
		5週	デジタルフィルタの基礎	線形差分方程式、デジタルフィルタの構造について学ぶ。		
		6週	デジタルフィルタの基礎	デジタルフィルタの周波数応答について学ぶ。		
		7週	デジタルフィルタの基礎	z変換の性質と逆z変換について学ぶ。		
		8週	デジタルフィルタの基礎	伝達関数と周波数応答、時間応答と安定性について学ぶ。		
	4thQ	9週	周波数選択性デジタルフィルタ	周波数選択性デジタルフィルタの概要について学ぶ。		
		10週	周波数選択性デジタルフィルタ	設計仕様の与え方、線形特性について学ぶ。		
		11週	周波数選択性デジタルフィルタ	FIRフィルタの設計について学ぶ。		
		12週	周波数選択性デジタルフィルタ	IIRフィルタの設計について学ぶ。		
		13週	2次元信号処理	2次元信号処理の基礎を学ぶ。		
		14週	2次元信号処理	2次元フィルタの基礎を学ぶ。		
		15週	全体のまとめ	これまで学んだことを復習するとともに、体系づけて理解することで、知識の定着を図る		
		16週	期末試験	これまでのまとめ		
評価割合						
	試験	発表	レポート	合計		
総合評価割合	50	25	25	100		
基礎的能力	30	25	25	80		
専門的能力	20	0	0	20		

沖縄工業高等専門学校	開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	システム L S I 設計工学
科目基礎情報				
科目番号	6211	科目区分	専門 / 選択	
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	電子通信システム工学コース	対象学年	専1	
開設期	前期	週時間数	2	
教科書/教材	適宜、電子データや紙媒体を配布する。			
担当教員	山田 親稔			
到達目標				
システムLSI設計およびHW/SW協調設計の基礎を理解できる。システム L S I の設計手法を理解できる。 【V-D-3:5-5】 コンピュータアーキテクチャにおけるトレードオフについて理解している。 【V-D-3:6-1】 ハードウェア記述言語など標準的な手法を用いてハードウェアの設計、検証を行うことができる。 【V-D-4:2-1】 システム設計には、要求される機能をハードウェアとソフトウェアでどのように実現するかなどの要求の振り分けやシステム構成の決定が含まれることを理解している。 【V-D-4:2-2】 ユーザの要求に従ってシステム設計を行うプロセスを説明することができる。				
ルーブリック				
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低限必要な到達レベル (可)	
設計の基礎の理解について課題発表により評価する。	システムLSI設計およびHW/SW協調設計の基礎と開発手法を理解でき、工夫した構成法を検討できる。	システムLSI設計およびHW/SW協調設計の基礎と開発手法を理解できる。	システムLSI設計およびHW/SW協調設計の基礎を理解できる。	
設計手法の理解について課題レポートにより評価する。	システム L S I の設計手法を理解し構成を工夫して実装できる。	システム L S I の設計手法を理解し実装できる。	システム L S I の設計手法を理解できる。	
学科の到達目標項目との関係				
教育方法等				
概要	システムLSI設計の上位設計から実装設計までの設計手法の基礎知識を習得する。 授業は統一プラットフォームの組込み機器を用いて、各自で設計するシステムを立案し、システムを実装することを目指す。毎回の講義の始めに進捗状況を報告し、最終的に課題レポートを作成する。			
授業の進め方・方法				
注意点				
授業の属性・履修上の区分				
☐ アクティブラーニング	☐ ICT 利用	☐ 遠隔授業対応	☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画				
		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	システム L S I の概要	シラバスを用いた講義および概要の説明
		2週	システムレベル設計 (1)	システム L S I 設計の流れ 【V-D-3:5-5】 コンピュータアーキテクチャにおけるトレードオフについて理解している。
		3週	システムレベル設計 (2)	システムレベル設計の流れ 【V-D-4:2-1】 システム設計には、要求される機能をハードウェアとソフトウェアでどのように実現するかなどの要求の振り分けやシステム構成の決定が含まれることを理解している。 【V-D-4:2-2】 ユーザの要求に従ってシステム設計を行うプロセスを説明することができる。
		4週	システムレベル設計 (3)	機能仕様設計、アーキテクチャ設計、通信設計 【V-D-4:2-1】 システム設計には、要求される機能をハードウェアとソフトウェアでどのように実現するかなどの要求の振り分けやシステム構成の決定が含まれることを理解している。 【V-D-4:2-2】 ユーザの要求に従ってシステム設計を行うプロセスを説明することができる。
		5週	システムレベル設計 (4)	C 言語ベース設計
		6週	システムレベル設計 (5)	HW / SW 協調シミュレーション
		7週	組込みソフトウェア開発技術	組込みソフトウェア向けコンパイラ、組込み O S
		8週	中間課題報告	課題作成状況の中間報告
	2ndQ	9週	ハードウェア設計手法 (1)	ハードウェア記述言語 【V-D-3:6-1】 ハードウェア記述言語など標準的な手法を用いてハードウェアの設計、検証を行うことができる。
		10週	ハードウェア設計手法 (2)	高位合成、論理合成
		11週	ハードウェア設計手法 (3)	レイアウト合成、タイミング解析、低消費電力設計
		12週	検証と検査 (1)	動的検証、静的検証
		13週	検証と検査 (2)	故障モデル、テスト容易化設計
		14週	システム L S I 設計の将来動向	I P コアによる再利用技術、プログラマブル素子の利用
		15週	まとめ	課題発表を行う
		16週		
評価割合				

	定期試験	小テスト	レポート	その他（演習課題・発表・実技・成果物等）	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	50	50	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	25	0	0	25
応用力（実践・専門・融合）	0	0	25	0	0	0	25
社会性（プレゼン・コミュニケーション・PBL）	0	0	0	25	0	0	25
主体的・継続的 学習意欲	0	0	25	0	0	0	25

沖縄工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	光電子デバイス	
科目基礎情報							
科目番号	6212			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	電子通信システム工学コース			対象学年	専1		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	授業項目によって、プリント、パワーポイントを使用						
担当教員	高良 秀彦						
到達目標							
光通信や光情報処理に用いられる半導体レーザダイオード、PINフォトダイオード、光増幅器、光変調器などの様々な光デバイスの動作原理，構造および特性の基礎について理解する。光デバイスを用いた光送信技術、光中継技術、光受信技術，およびこれらを統合した光通信システムの基礎について理解する。							
【V-C-4】電子工学:電子工学系領域では、電子物性の基礎を学び、半導体や半導体デバイスの基本的事項を習得することを目標とする。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
主に光通信に使用する光デバイス，光増幅器・変調器の動作原理・構造・機能・応用について基礎的な知識を理解する。	主に光通信に使用する半導体光デバイス，光増幅器・変調器の動作原理・構造・機能・応用，製造技術について応用問題を解くことができる。			主に光通信に使用する半導体光デバイス，光増幅器・変調器の動作原理・構造・機能・応用，製造技術について基本問題を解くことができる。		主に光通信に使用する半導体光デバイス，光増幅器・変調器の動作原理・構造・機能・応用，製造技術について用語が理解できる。	
光デバイスを用いた光送信技術、光中継技術、光受信技術，およびこれらを統合した光通信システムの基礎的な知識を理解する。	光デバイスを用いた光送信技術、光中継技術、光受信技術，およびこれらを統合した光通信システムの応用問題を解くことができる。			光デバイスを用いた光送信技術、光中継技術、光受信技術，およびこれらを統合した光通信システムの基本問題を解くことができる。		光デバイスを用いた光送信技術、光中継技術、光受信技術，およびこれらを統合した光通信システムの用語が理解できる。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	1．授業は講義を主体としながら，デバイス観察，変調波形観測などを適宜実施して理解を深める。 2．演習問題，英文解説などの課題をこなして応用力を身につける。						
授業の進め方・方法							
注意点							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	光通信・光デバイス	光通信および光デバイスの基礎			
		2週	光デバイス 1	発光素子の原理・構造・応用			
		3週	光デバイス2	光変調器の原理・構造・応用			
		4週	光デバイス3	受光素子の原理・構造・応用			
		5週	光デバイス4	光増幅器の原理・構造・応用			
		6週	光デバイス 5	3 R回路の原理・構造・応用			
		7週	光デバイス 6	光伝送路の原理・構造・応用			
		8週	中間試験	週 1 ～ 7 の授業で学んだ内容について試験を行う			
	2ndQ	9週	光通信システム 1	光送信・光受信技術			
		10週	光通信システム2	光変復調技術			
		11週	光通信システム 3	光中継技術			
		12週	光通信システム 4	光伝送技術			
		13週	光通信システム 5	多重技術（時間分割多重）			
		14週	光通信システム 6	多重技術（波長分割多重）			
		15週	光通信システム 7	多重技術（空間分割多重）			
		16週	期末試験	週9～15の授業で学んだ内容について試験を行う			
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	0	0	40	100
基礎的能力	40	0	0	0	0	40	80
専門的能力	20	0	0	0	0	0	20
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

沖縄工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	半導体物性工学	
科目基礎情報							
科目番号	6213			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	電子通信システム工学コース			対象学年	専1		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	電子物性(松澤剛雄他 森北出版)						
担当教員	兼城 千波						
到達目標							
電子や原子などの性質を理解し、金属や半導体などの材料物性を理解する。半導体とそれを用いたデバイス構造、動作原理、電気特性について、物性的観点から理解する。(電子や原子等の基本的性質を理解し、金属や半導体の物性の理解に役立てられる。半導体の基本的性質を理解し、pn接合の特性やトランジスタの動作原理等を説明できる。物質を構成する様々な元素の性質を理解し、それらの性質が、電子の振る舞いによることを周期表と関連付けて理解できる。元素の組み合わせからなる無機元素および化合物の構造、結合状態、性質について説明することができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		最低限必要なレベルの目安(可)	
電子や原子などの性質を理解し、金属や半導体など材料物性を理解する。		磁性、誘電性、圧電性を説明できる・固体のエネルギーと質量の関係について説明できる・ダブルヘテロなどの特殊構造を説明できる		金属・半導体・絶縁体の区別を説明できる・半導体の結晶構造とエネルギーバンドについて説明できる・不純物半導体(p型、n型)の作り方(構成)を説明できる		電子の電荷量や質量、単位などの基本性質を説明できる・原子の基本的構造を説明できる・真性半導体と不純物半導体の区別できる・元素半導体と化合物半導体の区別ができる	
半導体とそれを用いたデバイス構造、動作原理、電気特性について、物性的観点から理解する。		実験などできる得られるデータからパラメータを抽出できる		エネルギーバンド図を用いて、pn接合大オード、バイポーラトランジスタ、ユニポーラトランジスタの動作原理と電気特性を理解できる		pn接合の構造をエネルギーバンド図から説明できる・バイポーラトランジスタの構造をエネルギーバンド図から説明ができる・ユニポーラトランジスタの構造をエネルギーバンド図から説明ができる	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	半導体の原理、構造、エネルギーバンドについて学ぶ。						
授業の進め方・方法	授業の一部を輪講形式（または課題）で行い、作成資料を評価対象とする。						
注意点							
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	結晶構造		イオン結合、共有結合、金属結合、結晶構造を理解し、説明できる		
		2週	格子振動		格子振動、格子振動の量子化を理解し、説明できる。		
		3週	固体の熱的性質		固体比熱、アインシュタイン理論、熱伝導を理解し、説明できる		
		4週	古典的電子伝導モデル		自由電子、ドリフト速度、緩和時間、移動度を理解し、説明できる。		
		5週	量子力学の基礎		物質の粒子性と波動性、波動方程式、トンネル効果、パウリの排他律を理解し、説明できる		
		6週	固体のエネルギーバンド理論		自由電子モデル、フェルミディラック分布、クローニツヒ・ペニーモデル、結晶内の電子運動を理解し、説明できる。		
		7週	半導体と金属の電気的性質		真性半導体・不純物半導体、ダイオードの動作とエネルギーバンド・電気特性を理解し説明できる		
		8週	中間テスト				
	4thQ	9週	半導体デバイス		バイポーラ・ユニポーラトランジスタの動作とエネルギーバンド・電気特性を理解し、説明できる。		
		10週	固体の光学的性質		光の吸収と反射、光電効果、太陽電池、半導体レーザ、を理解し説明できる。		
		11週	誘電体		誘電率と分極を理解し説明できる。		
		12週	磁性体		磁化率と透磁率、反磁性体、強磁性体、常磁性体を理解し説明できる。		
		13週	超伝導体		超伝導現象、高温超伝導を理解し、説明できる。		
		14週	固体の量子効果		量子井戸、超格子、エネルギーバンド、量子化、電気伝導を理解し、説明できる。		
		15週	デバイス特性解析		測定データからの各種パラメータの導出し、説明できる。		
		16週	期末試験				
評価割合							
	試験	発表	レポート	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	20	0	0	0	100
基礎的能力	30	0	10	0	0	0	40

專門的能力	30	0	10	0	0	0	40
分野横断的能力	20	0	0	0	0	0	20

沖縄工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	L S I プロセス工学	
科目基礎情報							
科目番号	6216		科目区分		専門 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	電子通信システム工学コース		対象学年		専1		
開設期	前期		週時間数		2		
教科書/教材	配布資料、 P P T						
担当教員	兼城 千波						
到達目標							
①半導体デバイスおよび集積回路の設計・製作方法について理解する。 ②製造工程の物理現象について理解する。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
半導体デバイスおよび集積回路の設計・製作方法について理解する。		・ 資料を見ず、デバイスおよび集積回路の作製方法について自分の言葉で説明できる		・ 資料を見ず、デバイスおよび集積回路の作製方法について説明できる		・ 資料を見ながら、デバイスおよび集積回路の作製方法について説明できる	
製造工程の物理現象について理解する。		・ 資料を見ず、製造工程の物理現象について自分の言葉で説明できる		・ 資料を見ず、製造工程の物理現象について説明できる		・ 資料を見ながら、製造工程の物理現象について説明できる	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	本講義では、MOSトランジスタの製作方法を中心に半導体素子および集積回路の設計・製作を解説し、実施に用いられる装置を使いながら講義する。 科学技術の集大成である集積回路製作技術を学び、情報機器分野での新製造技術の創造能力の修得を目標とする。本科目は、最新の集積回路（IC）における素子構造および製造技術に関する全般的な知識を習得することを目標とし、素子構造ではナノサイズまで縮小したMOSトランジスタ特性や諸問題について、製造技術では今日の集積回路製造技術を支えるフォトリソグラフィ、ドライ＆ウェットエッチング、CVD成膜技術、不純物導入等の基本的な集積回路製造技術について講義を行う。						
授業の進め方・方法	・ 授業の一部を輪講形式で行い、作成資料を評価対象とする。LSIがどのように製作されるかを表現・説明できるようにすることを求める。 ・ 履修に際しては、電子回路および半導体工学などの科目を履修していることが望ましい。 評価：定期試験（中間・期末）（80%）＋レポート・輪講資料（20%）（A-4） 学年末評価は前期評価と後期評価の平均で行い、60%以上を合格とする。						
注意点	【自学自習に対する対応】 【その他】 ・ この科目の主たる関連科目は情報通信システム工学科科目関連図一覧表を参照のこと。 （モデルコアカリキュラム） ・ 対応するモデルコアカリキュラム(MCC)の学習到達目標、学習内容およびその到達目標を【 】内の記号・番号で示す。 （航空技術者プログラム） ・ 【航】は航空技術者プログラムの対応項目であることを意味する。 （学位審査基準の要件による分類・適用） 科目区分 専門科目 A 電子工学に関する科目						
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	集積回路における微細加工1・講義		微細加工技術・スケーリング則について理解する		
		2週	集積回路における微細加工2・講義		プレーナ技術について（ダイオード構造と製作過程）理解する		
		3週	集積回路における微細加工3・講義		フォトリソグラフィについて理解する		
		4週	集積回路における微細加工4・講義		エッチング法（ウェット・ドライ）について理解する		
		5週	集積回路における微細加工5・講義		不純物導入（pn接合）について理解する		
		6週	集積回路における微細加工6・講義		成膜方法（CVD・PVD法）について理解する		
		7週	集積回路における微細加工7・講義		シリコン酸化膜形成について理解する		
		8週	中間試験		これまでの講義内容について試験で到達度を評価する		
	2ndQ	9週	半導体素子・集積回路設計1・講義		MOSトランジスタの構造と製作方法について理解する		
		10週	半導体素子・集積回路設計2・講義		DRAMの構造について1（機能・設計）理解する		
		11週	半導体素子・集積回路設計3・講義		DRAMの構造について2（製造）理解する		
		12週	半導体素子・集積回路設計4・輪講		DRAMの構造について1（機能・設計）理解する		
		13週	半導体素子・集積回路設計5・講義		SRAMの構造について2（製造）理解する		
		14週	半導体素子・集積回路設計6・輪講		SRAMの構造について1（機能・設計）理解する		
		15週	半導体素子・集積回路設計7・講義		フラッシュメモリーの構造について2（製造）理解する		
		16週	期末試験		これまでの講義内容について試験で到達度を評価する		
評価割合							
	試験	輪講	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	20	0	0	0	0	100
基礎的能力	60	0	0	0	0	0	60

專門的能力	20	10	0	0	0	0	30
分野横断的能力	0	10	0	0	0	0	10

沖縄工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	航空工学II	
科目基礎情報							
科目番号	8002			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	電子通信システム工学コース			対象学年	専1		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	担当教員作成のPPT資料、航空工学講座2（飛行機構造）、配布プリント						
担当教員	眞喜志 隆,津村 卓也						
到達目標							
航空機の構造を理解する上で重要である、部材の組み合わせ方法、疲労強度の推定、圧力容器の強度、梁の強度、組合せ応力の求め方を学修し、航空機構造について理解する ・本科目は航空技術者プログラムの履修科目である							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		最低限必要な到達レベルの目安(可)	
基本的ないくつかの構造についてその特徴を理解し、説明できる	航空機に使われている基本的な構造と実際の機体との関連について説明できる			航空機に使われている基本的な構造体の力学的な特徴を説明できる		航空機に利用されている構造体の基本的な説明ができる	
疲労破壊に関連した設計基準について理解し、説明できる	疲労破壊を考慮した機体設計の基準について説明できる			疲労破壊を考慮した機体構造に知て説明できる		疲労破壊の基礎について説明できる	
圧力容器としての機体構造について理解し、説明することができる	機体構造を薄肉の圧力容器として強度について説明できる			薄肉の圧力容器の強度について説明できる		薄肉容器の強度について説明できる	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	航空技術者プログラムの科目である。本科機械システム工学科での材料力学設計・機械材料・材料科学での履修内容が基礎とし、飛行機構造のうち機体の構造のもととなる工学要素について講義する。 【オムニバス方式】 第1～5回, 第9～15回を眞喜志隆教授が担当。第6, 7回を政木清孝准教授が担当。第8, 9回を津村卓也准教授が担当						
授業の進め方・方法							
注意点	・本科目は航空技術者プログラムの履修科目である						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	航空構造と航空機材料の概要		航空機構造を構成する部材形状について説明できる		
		2週	構造の種類		トラス構造の解説とその強度について説明できる		
		3週	構造の種類		応力外皮構造の解説とその強度について概要を説明できる		
		4週	安全設計		安全率の考え方と基本的な求め方を説明できる		
		5週	安全設計		疲労破壊と安全率について説明できる		
		6週	航空機構造		翼の構造について概要を説明できる		
		7週	航空機構造		圧力容器の強度計算を説明できる		
		8週	設計の概念と破壊		静的破壊と疲労破壊の違いについて説明できる		
	2ndQ	9週	設計の概念と破壊		静的破壊と疲労破壊の違いについて説明できる		
		10週	航空機における疲労設計要求の変遷		フェールセーフの考え方と安全率について説明できる		
		11週	航空機における疲労設計要求の変遷		疲労限度設計と疲労寿命設計の違いについて説明できる		
		12週	航空機における疲労設計要求の変遷		損傷許容設計の考え方と広域疲労損傷について説明できる		
		13週	複合材料の基礎		航空機材料に利用されている複合材料の種類、特徴、製法について説明できる		
		14週	複合材料の基礎		複合材料の機械的性質について説明できる		
		15週	航空機構造		胴体の構造について説明できる		
		16週	学期末試験				
評価割合							
	試験（レポート）	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	30	0	0	0	0	0	30
専門的能力	50	0	0	0	0	0	50
分野横断的能力	20	0	0	0	0	0	20

沖縄工業高等専門学校		開講年度	令和06年度（2024年度）		授業科目	数値解析論	
科目基礎情報							
科目番号	6207			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	電子通信システム工学コース			対象学年	専2		
開設期				週時間数	4		
教科書/教材	わかりやすい数値計算入門 第二版 栗原 正二（ムイスリ出版）						
担当教員	藤井 知						
到達目標							
工学的な問題解決のためのコンピュータによる数値解析の基礎を習得する。 数値解析の基本的な用語や考え方を理解できる。 アルゴリズムの確立と実際の計算作業ができる。 数値解析に関する基本演習および自発的・継続的な学習を身につける。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		最低限必要な到達レベルの目安(可)	
数値解析の基本的な用語や考え方を理解できる。	これまでに学習した他の科目と関連付けながら数値解析と実問題に対応付けながら説明ができる。			教科書や資料に従って数値解析の概念の要点を説明できる。		教科書や資料を見ながら数値解析の概念の説明ができる。	
アルゴリズムの確立と実際の計算作業ができる。	これまでに学習した他の科目と関連付けながらアルゴリズムの確立と実際の計算作業ができる。			教科書や資料に従ってアルゴリズムの確立と実際の計算作業ができる。		教科書や資料を見ながらアルゴリズムの確立と実際の計算作業ができる。	
数値解析に関する基本演習および自発的・継続的な学習を身につける。	これまでに学習した他の科目と関連付けながら数値解析に必要となる計算ができる。			教科書や資料に従って数値解析に必要となる計算ができる。		教科書や資料を見ながら数値解析に必要となる計算ができる。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	工学的な問題解決のためのコンピュータによる数値解析の基礎を習得する。						
授業の進め方・方法	授業は輪講形式で実施し、各自輪講用資料をまとめ、発表を行う。輪講用資料はレポートとして評価する。						
注意点	シミュレーションを履修していることが望ましい						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
評価割合							
	試験	レポート	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	40	0	0	0	0	100
基礎的能力	20	15	0	0	0	0	35
専門的能力	20	15	0	0	0	0	35
分野横断的能力	20	10	0	0	0	0	30

沖縄工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	アルゴリズム理論	
科目基礎情報							
科目番号	6209			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	電子通信システム工学コース			対象学年	専2		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	「Javaプログラマのためのアルゴリズムとデータ構造」(ソフトバンクパブリッシング) 「アルゴリズムとデータ構造」(SoftBank Creative) (他にも参考図書を探す場合のキーワード: アルゴリズム、データ構造)						
担当教員	金城 伊智子						
到達目標							
①アルゴリズムおよびデータ構造とそれらに対する操作に関して理解を深め、アルゴリズムの設計技法を習得する。(A-2、A-3、B-1) ②数値計算アルゴリズムを説明でき、離散数学などのアルゴリズム設計の際に概念を利用することができる。(A-2、A-3、B-1) 【V-D】ソフトウェアの分野では、計算量等の指標を使ってプログラムを抽象化して理解・分析できるための基礎を獲得している。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
アルゴリズムおよびデータ構造とそれらに対する操作に関して理解を深め、アルゴリズムの設計技法を習得する。(A-2、A-3、B-1)	これまでに学習した他の科目と関連付けながらアルゴリズムおよびデータ構造とそれらに対する操作に関して理解を深め、アルゴリズムの設計技法についての説明ができる。		教科書や資料に従ってアルゴリズムおよびデータ構造とそれらに対する操作に関して理解を深め、アルゴリズムの設計技法についての説明ができる。		教科書や資料を見ながらアルゴリズムとデータ構造とそれらに対する操作に関して理解を深め、アルゴリズムの設計技法についての説明ができる。		
数値計算アルゴリズムを説明でき、離散数学などのアルゴリズム設計の際に概念を利用することができる。(A-2、A-3、B-1)	これまでに学習した他の科目と関連付けながら数値計算アルゴリズムを説明でき、離散数学などのアルゴリズム設計の際に概念を利用することができる。		教科書や資料に従って数値計算アルゴリズムを説明でき、離散数学などのアルゴリズム設計の際に概念を利用することができる。		教科書や資料を見ながら数値計算アルゴリズムを説明でき、離散数学などのアルゴリズム設計の際に概念を利用することができる。		
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	講義では、プログラム設計を行う際に必要となるデータ構造とアルゴリズムの概念を理解する。また、基本的なデータ構造の実装方法を修得し、各種探索手法、ソート法など各種アルゴリズムの特徴を理解するとともに実装により理解を深める。						
授業の進め方・方法	定期試験(中間・期末)(80%) + レポート・輪講資料(20%) 学年末評価は中間評価と期末評価の平均で行い、60%以上を合格とする。						
注意点							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	ガイダンス、最適化問題	1年間の授業の進め方や課題の提出方法を説明する。最適化問題の役割や概念を理解する。			
		2週	データ構造	リスト、スタック、キューについて理解する。			
		3週	グラフ、木	グラフとその表現、木について理解する。			
		4週	ヒープ、集合	ヒープ、集合の表現と演算について理解する。			
		5週	再帰法	再帰法再帰方程式の解法について理解する。			
		6週	分割統治法	分割統治法について理解する。			
		7週	動的計画法	動的計画法について理解する。			
		8週	後期中間試験				
	4thQ	9週	関係、線形順序、決定木	関係、線形順序、決定木について理解する。			
		10週	マージソート、ヒープソート	マージソート、ヒープソートについて理解する。			
		11週	クイックソート、バケットソート	クイックソート、バケットソートについて理解する。			
		12週	選択問題	選択問題について理解する。			
		13週	2分探索法と2分探索木	2分探索法と2分探索木、AVL木について理解する。			
		14週	グラフの探索	グラフ探索の手法について理解する。			
		15週	いろいろなアルゴリズム	バックトラック法について理解する。			
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	60	0	0	0	0	10	70

專門的能力	20	0	0	0	0	0	20
分野横断的能力	0	0	0	0	0	10	10

沖縄工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	弾性波工学
科目基礎情報						
科目番号	6214		科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	電子通信システム工学コース		対象学年	専2		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	Surface Acoustic Wave Devices and Thier Signal Processing Applications(Academic Press Inc, Colin Campbell)/弾性表面波工学（電子情報通信学会編、柴山乾夫監修）/弾性表面波デバイスシミュレーション技術入門（リアライズ社、橋本研也）					
担当教員	藤井 知					
到達目標						
①弾性波のメカニズム・基礎を理解する。(A-4) ②弾性波デバイス構造、動作原理、電気特性について、物性的観点から理解する。(A-4)						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
弾性波のメカニズム・基礎を理解する。	・弾性体の運動方程式を使って、材料の応力を算出することができる ・弾性波の励振原理に基づいて、電極形状やデバイス構造を設計できる		・ひずみ、応力、弾性定数、材料、機械結合係数などの専門用語を説明できる ・弾性波（弾性表面波）の励振（中心周波数、周波数特性、BW、減衰・挿入損）を定量的に説明できる		・ひずみ、応力、弾性定数、材料、機械結合係数などの専門用語が理解できる ・弾性波（弾性表面波）の励振を定性的に説明できる	
弾性波デバイス構造、動作原理、電気特性について、物性的観点から理解する	・弾性波応用デバイスの学習したすべてのデバイスについてデバイス構造、電気特性を説明することができる ・デバイス特性を見て、どんな機能があるかを説明できる		・弾性波応用デバイスの一例をデバイス構造、電気特性とともに説明することができる ・測定する特性について、何がキーパラメータとなるか？わかっている		・弾性波を使った応用デバイスにどんなものがあるかを説明できる ・一般的な弾性波デバイスにはどんな測定方法が用いられているか、理解できる	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	・弾性波の原理、構造、デバイスについて学ぶ。					
授業の進め方・方法	定期試験（中間50％・期末50％）（100％）で評価を行う。 学年末評価は前期評価と後期評価の平均で行い、60％以上を合格とする。 ・電磁気学・マイクロ波工学を履修していること。					
注意点	・この科目の主たる関連科目は情報通信システム工学学科科目関連図一覧表を参照のこと。 （モデルコアカリキュラム） ・対応するモデルコアカリキュラム(MCC)の学習到達目標、学習内容およびその到達目標を【】内の記号・番号で示す。 （航空技術者プログラム） 【自学自習の対応】 ・レポート（その週の講義内容に沿った内容についてレポートを課す。） 各8時間×2回 ・輪講の準備（資料の情報収集とPPTの作成） 各9時間×2回 ・毎週の講義の復習 各2時間×13回 【その他】 ・【航】は航空技術者プログラムの対応項目であることを意味する。 （学位審査基準の要件による分類・適用） 科目区分 専門科目 A 電子工学に関する科目					
授業の属性・履修上の区分						
☒ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	弾性波工学概論 歴史的事項、応用と進展	歴史的事項、応用と進展 【V-F-3】弾性力学分野では、2次元弾性体の応力とひずみを理論的に理解できること		
		2週	弾性波の基礎(1)	ひずみ、応力、弾性定数、弾性体の運動方程式、材料、機械結合係数 【V-F-3】弾性力学分野では、2次元弾性体の応力とひずみを理論的に理解できること		
		3週	弾性波の基礎(2)	ひずみ、応力、弾性定数、弾性体の運動方程式、材料、機械結合係数 【V-F-3】弾性力学分野では、2次元弾性体の応力とひずみを理論的に理解できること		
		4週	弾性波の励振(1)	直接励振、間接励振 【V-F-3】弾性力学分野では、2次元弾性体の応力とひずみを理論的に理解できること		
		5週	弾性表面波の伝搬(1)	ひずみ、応力、弾性定数、弾性体の運動方程式、材料、機械結合係数 【V-F-3】弾性力学分野では、2次元弾性体の応力とひずみを理論的に理解		
		6週	弾性表面波の伝搬(2)	ひずみ、応力、弾性定数、弾性体の運動方程式、材料、機械結合係数 【V-F-3】弾性力学分野では、2次元弾性体の応力とひずみを理論的に理解できること		

		7週	弾性表面波の伝搬(3)	ひずみ、応力、弾性定数、弾性体の運動方程式、材料、機械結合係数 【V-F-3】弾性力学分野では、2次元弾性体の応力とひずみを理論的に理解できること
		8週	前期中間レポート	
	2ndQ	9週	弾性波の励振(1)	直接励振、間接励振 【V-F-3】弾性力学分野では、2次元弾性体の応力とひずみを理論的に理解できること
		10週	弾性波の励振(2)	直接励振、間接励振 【V-F-3】弾性力学分野では、2次元弾性体の応力とひずみを理論的に理解できること
		11週	弾性波の励振(3)	直接励振、間接励振 【V-F-3】弾性力学分野では、2次元弾性体の応力とひずみを理論的に理解できること
		12週	弾性波の励振(4)	直接励振、間接励振 【V-F-3】弾性力学分野では、2次元弾性体の応力とひずみを理論的に理解できること
		13週	SAWフィルタ設計(1)	SAW電極設計
		14週	SAWフィルタ設計(2)	SAW電極設計
		15週	まとめ	弾性波のまとめ（輪講）
		16週	期末試験	

評価割合

	試験	発表	レポート	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	40	20	40	0	0	0	100
基礎的能力	35	10	35	0	0	0	80
専門的能力	5	10	5	0	0	0	20
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0